

- 1 内田全権の対列国交渉
2 旧宣統帝溥儀の動静

日本外交文書 昭和期I第一部第二卷 日付索引

一 満蒙懸案解決交渉

1 昭和3年1月(1)日 在奉天蜂谷(輝雄)總領事代理より

田中(義一)外務大臣宛(電報)

張作霖の対日態度等に關する吉田總領事と劉

尚清奉天省長との会見について

奉 天

発

本 省 1月1日前着

* 第三七八号

吉田總領事ヨリ省長トノ会見顛末口述要領左ノ通り命ニ依

リ電報ス

本官帰朝前一応劉省長ニ会ハムカト存シ予メ彼ノ顧問格タ

ル丁鑑修ヲ招キ若シ劉ニシテ本官カ從来張作霖莫省長等ニ

説ケル真意ヲ諒解シ得ハ会見スヘシトテ種々説明ノ処丁ハ

初メ劉ヲ攻撃半分多分六ヶシカラムト仄メカシタルカ其後

劉ト話合ヒタルモノト見ヘ二十八日丁來訪シ会ハレテハ如

何ト勧メ来レルヲ以テ此ノ日午後ニ劉ヲ訪問先ツ本官ヨリ

日本ト張作霖トノ特殊關係ヲ説キ抑々張今日アルハ往年福

島大將ニ一命ヲ救ハレタルニ初マリ爾來我陸軍其他ニ負フ
處鮮カラサルニ依ル若シ我援助ナカリセハ今日東三省ハ南

方軍ノ北上赤露ノ南下ニ依リ彼既ニ疾ク失脚セシハ言ヲ俟
タス然ルヲ今更我ニ恩顧ヲ蒙ラス等ト嘯キ何カト無益ノ
「プラフ」ヲ弄シテ我ニ当リ今日ハ我陸軍スラ態度変リツ

ツアリ現ニ楊宇霆ノ失言ノ如キ甚タ穩カナラヌモノアリ若
シ此儘ニ押進マハ張ノ地位明日ニモ覆ヘラストハ限ラス
日本過去ノ歴史ハ我ニ非礼ヲ加フルモノヲ膺懲ス張若シ速

ニ此ノ点反省セサレハ日本ト雖遂ニ張ニ対シ傍観ヨリ進ン

テ覆轍セシムルニ至ルナキヲ得ス然レトモ斯ク言ヘハトテ

之レ我張ヲ憎ムカ故ニアラス却テ其ノ将来ヲ思ヘハコソナ

リ单ナル個人的感情ヨリセハ自分ハ常ニ彼ヲ「レコンメン

ド」シ居ル程ナルカ彼不幸ニシテ左右ノ輩ニ誤ラレ其ノ明

ヲ塞キ今日ノ態度アラシムルハ真ニ彼ヲ擁立スル所以ニア

ラサルヘシ將又莫省長ニ付テモ同様ニテ個人的ニハ一点反

感ナシト雖不当課税其ノ他條約違反ヲ事トシ排日運動ヲス

ラ起スニ至リテハ公職上ノ彼ニ対シ飽迄反省セシムル必要

ヲ認メタルモノニシテ実ハ九月排日ノ頃若シ第二回排日ヲ
敢テセハ我ハ奉天城ヲ占領シテモ其ノ反省ヲ促サムカト決
意シ且之ヲ決行シ得ル確信アリタルカ若シ事效ニ出テシナ
ラムカ日・張関係緊迫ノ間隙ニ乗スル馮玉祥其ノ他ノ為張
ノ運命亦知ルヘカリシノミ蓋シ新省長ニ対シテモ同様ナル
カ故ニ出来得ヘクハ貴我真ノ提携ヲ計リ我ノミナラス三者
ヲシテ広ク之ニ拠ランメソコト希望ニ堪ヘスト説キタル処
劉ハ彼是ト頻リニ張等ノ弁護ニ努メ居リタルカ次テ本官ヨ
リ交渉ニハアラサルモ一応省長ノ決定ヲ聞キ置キタシト前
提シ

(一)盛京時報ノ件聞質セル處劉ハ過日松井ヨリ同紙主筆ヲ代
ヘ記事モ改ムヘケレハ禁止等言論圧迫ハ止メラレタント
申出有リタルヲ以テ右ハ言論圧迫ニ非ス同紙ノ記事甚タ
不公平ニテ奉軍ノ不利ノミヲ伝ヘ人心不安トナルカ故ニ
禁止セリト答ヘタリトノ事ニ付本官ヨリ莫省長ハ突然本
紙ヲ禁シタル理由トシテ張殺スヘシトノ暴論有リタルニ
依ルモノナリト云ヘルニヨリ其ノ指摘ヲ求メタルニ遂ニ
提示シ来ラス只今省長ノ説明ハ一ナラス又省長ハ不公平
云々ト云フモ省長ノ言ノ公平トハ奉軍ニ有利ノ記事ノミ

タシト明答ヲ避ケ最後ニ

タシト明答ヲ避ケ最後ニ

第四号

貴電第五八一号ニ閲シ

ニ閲シ奉天当局カ驅逐策ヲ講シ居ルニ反シ朝鮮官憲ハ却
テ支那人保護ニ尽力シ輿論緩和ニ努力シツツアリト申聞
ケ近ク京城ニ立寄リ尚篤ト協議スヘキ意向ナリトテ省長
ノ決定的意見ヲ求メタル處劉ハ本件ハ事全ク誤解ニ出テ
支那側細工モセス密令ヲ発セルコトモ無ク從來ノ処置ト
何等変り無キカ故ニ此誤解一掃方總督府側ニモ御尽力ア
リタク若シ事件アラハ速ニ法ニ照ラシ処置スヘケレハ具
体的事件ニ付改メテ協議シタシト答ヘタルニヨリ然ラハ
各事実ニ対シ後任者ト直接協議セラルルヤヲ念ラ押シ其
ノ承認ヲ取リ付ケ時間切迫ニ付引取りタリ

2 昭和3年1月(5)日 在中國芳沢(謙吉)公使より
田中外務大臣宛(電報)

帽兒山領事館分館設置問題および不法課税問
題について

北 京 発
本 省 1月5日前着

(二)不当課税ニ付張作霖トノ間ニ決定有リシヤヲ尋ネタル処
劉ハ張作霖ヨリ本件ハ双方ニ不都合無キ様協議セヨトノ
話アリタリト答ヘタルヲ以テ不当課税ヲ双方ニ都合良シ
等トノ矛盾ヲ突込マント存シタルモ既ニ長時間ノ会談ナ
リシト晚餐ヲ共ニシタシト勧メラレタルニヨリ明日ヲ約
シテ別レ三十日午餐ニ再度往訪シ続イテ

(三)臨江設置問題ニ付先方決意ヲ求メタルニ劉ハ本件ハ俄カ
ニ決定的意見ヲ述ヘ難ク充分考慮ノ上御帰任後協議致シ

下ニアルヲ以テ嘗テ楊宇霆ニモ不都合ノ記事ハ掲ケシメ
サル様スヘキニ付必要ノ際予メ本官ニ申出ツヘキ旨手紙
シタル事有リシカ楊ニ於テ我政策ヲ充分理解スヘシトノ
保障ヲ与ヘシカ故ナルニ拘ハラス其ノ後奉天官憲ノ態度
ハ右保障ヲ裏切ル事實多ク為ニ日支感情阻害シ自分ハ同
紙ヲシテ支那側反省ノ論ヲ書カシメタリ故ニ若シ支那側
ニシテ我真意ヲ理解タニシ解禁セハ明日ニモ論調ヲ改ム
ル事易々タリト述ヘタル處省長ハ本件ハ張作霖ノ許可ナ
クハ自分限リニテ解禁シ難キニ付直ニ手紙シ然ル後解禁
スヘシト答ヘ次テ

交渉ヲ地方的ニ開始シナルヘク付加税問題ヲ不法課税問題ニ関連セシムル様仕向クル事ニ致シタシ

奉天へ転電セリ

3 昭和3年1月10日 在北京本庄(繁)公使館付武官より
畠(英太郎)陸軍次官宛(電報)

山本・張鐵道協約の細目協定締結に關し張作
霖との会談について

1月10日後6時15分発
1月10日後11時59分着

支^{*}
七

滿蒙交渉ニ就キテハ大綱問題ハ既ニ終了シ吉林督軍張作相戰地ヨリ帰來スルヲ待チ其具体的協議ニ入ル筈ナリシカ町野顧問過般東京ニテ首相其他當局ヨリ依頼ヲ受ケシ由ニテ兩三日前江藤豊二ノ大連ヨリ帰來スルヲ待チ昨九日張作霖ニ會見シ日本ノ内情ハ何時帰來ス可キヤ量リ難キ張作相等ヲ待チ難ク又既ニ大綱ヲ議定シタル以上具体的協定モ五十歩百歩ナル可ク且ツ五条ノ鐵道ヲ同時ニ急設セントスル意見ニモアラス就テハ此ノ際吉会鐵道等一、二ノモノ丈ケニ

テモ即時具体的条件ノ協定ヲ要スル旨繰返シ説明シタル所

張作霖ハ地方ニ関係セルモノヲ地方長官ヲ抜キニシテ左様短期間ニ北京当事者ノミニテ具体的条件マテ決定シ得ヘキ

モノニ非ストナセシカ種々論議ノ末結果楊宇霆ノ帰來ヲ待キ方法ニ就キ研究スル所アルヘシト答ヘタリ

滿鉄ニ於テモ松岡副社長來說ニ依レハ地方官憲トノ間ニ具体的条件ヲ協議スルヲ容易ナラストシテ是非トモ北京ニ於

テ之ヲ断行セントスルモノノ如シ張作霖ノ言フ所前記ノ如シ然モ楊宇霆等ハ吉林方面張作相カ本問題ヲ實現セントスルニ当リ必ス省議会、商務總会等ノ使嗾ニ依リ若干ノ排日運動ヲ見ル可キモ夫レニハ幾多ノ方法アリ從テ地方ノ交渉ハ敢テ不可能ニ非ス只北京ニ於テハ國務院ノ関係モアリ秘密漏洩シテ全国的問題タルノ惧アリ余ハ其ノ成功ヲ予期スル能ハストイフヲ常トス要スルニ支那国民性ニ反シテ早急ナル交渉ヲ試ミ殊ニ之ヲ北京ニ於テ纏メシムルコトハ独リ張作霖ヲ同意セシムルノミヲ以テ足レリセス又楊宇霆ヲ沈黙セシメ得タリトスルモ猶交通總長常蔭槐ヲ納得セシムルノ困難アリ更ニ張作相ヲ戰地ヨリ呼ヒ返シ吉林省長ヲ來

京セシムル等ノ手段ヲモ講セシメサル可カラスト思ハル
4 昭和3年1月17日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)
帽兒山領事館分館設置問題および不法課税問題
題に関する天羽英二と楊宇霆との会見について

北 京 発
本 省 1月17日後着

第五〇号
(二文書)
往電第四号ニ閲シ

十六日天羽ハ楊宇霆ト会見曩ニ楊ノ堀、本庄、松井等ニ対スル言明ヲ引キテ帽兒山領事館設置ニ對スル主義上ノ承諾ヲ求メシニ楊ハ自分ハ確ニ記憶セサルモ仮令右様ノ事實アリトスルモ外交當局ニアラサルカ故ニ其言質ヲ責メラルルニ付天羽ハ問答ノ末付加税ハ條約上ノ問題ナルカ故ニシタシ

約ヲ改正セサレハ承認シ難ク且領事館設置ト付加税トハ全然關係ナキニ拘ラス付加税ヲ認メサレハ領事館ヲ認メスト

奉天、安東へ転電セリ

右ノ如ク楊トノ交渉ハ要領ヲ得ル模様ナクサレハトテ外交総長ト交渉スルニ於テハ尚更要領ヲ得サルヘク從テ此上ハ張作霖ニ威圧ヲ加フルヨリ致方ナキヤニ思考セラルモ其内政局ノ發展彼ニ不利ナルカ如キ場合ニ至ラサレハ彼モ亦容易ニ承認セサルヘキニ付更ニ考慮ヲ運ラスヘキモ兎ニ角差当リ往電第四号ノ如ク措置セラレ洮南ニ閲シテハ客年往電第一三七五号ニ從ヒ奉天ニテ交渉ヲ開始スルコトト致シタシ

5 昭和3年1月21日 在北京本庄公使館付武官より

煙陸軍次官宛(電報)

帽兒山領事館分館設置問題および二分五厘付

加税問題等について

1月21日後2時30分発
1月21日後9時15分着

支*一七

満蒙交渉ニ伴フ懸案ノ一ナル盛京時報購読禁止取消ノ件ハ
本月十九日大元帥ヨリ奉天省ニ宛テ発令セリ之ニテ本件ハ

懸案ニ就キテハ支那側ハ之レニ二分五厘付加税問題ト相殺
解決スル旨ナルモ帽兒山領事分館問題及不当課税問題等ノ

セントスル意向ナルカ如ク見ユ然ルニ我政府ハ主義トシテ
右付加税徵収ヲ許ササル方針ナルカ故ニ場所ニ依リテハ之
ヲ默認セルモ東三省中最大ノ納稅地タル大連ハ我租借地内

ニアルノ關係之ヲ認容シ難キカ如シ果シテ然ラハ懸案全部
ノ解決ハ尚相当面倒ナルヘシ又单ニ利害ノ上ヨリ見レハ前
記懸案ヲ二分五厘付加税ト相殺スルコトハ日本ノ不利益ニ
帰スルカ故ニ帽兒山分館問題等必シモ急ヲ要セサルモノ
ハ我方ヨリ焦慮スルニモ及ハサルカ如シ若シ夫レ國家ノ面

目上是非共之等懸案ヲ速カニ解決セントセハ満鉄問題解決
ニヨリ之ト關係ヲ持タシメ日本政府ノ名ニ於テ解決ノ促進
ヲ要求スルヲ必要ト認ム

6 昭和3年2月(27)日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

不法課税問題、盛京時報問題、帽兒山領事館

分館設置問題に関する劉尚清奉天省長との会
見について

北 京 本 省 発
2月27日後着

第二三八号

過般劉尚清張煥相等來燕ヲ機会ニ招宴シタル處劉ハ事故欠
席シタル為答禮旁來訪セリトテ二十五日來館シタルニ付本
使ハ其会談中ニ於テ不当課税奉票問題ニ付注意ヲ促シタル
処劉ハ所謂不当課税トハ一ハ付加税一ハ專照單問題ト解ス
ルカ右ハ中央トノ關係アルヲ以テ自分ハ国交上及私交上主
義トセル「開誠布公」ノ精神ヲ以テ進マハ解決困難ニ非ス
ト答ヘ次テ奉票問題ニ言及シテ付属地内取引所ニ出入スル

7 昭和3年3月(28)日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

満蒙懸案解決交渉行詰りの打開策について
付 記一 三月十日稿

「奉天派ノ對日態度並ニ關稅增徵問題ニ對
スル対策トシテノ南北和平提議」

二 (日付不明)

「在支公使引揚案ニ關スル件」

三 四月二十七日 吉田茂記

「対滿政策私見」

北 京 発
本 省 3月28日後着

第二四三号

往電第二三八号ニ關シ
(六文書)

満蒙交渉ハ支那側ニ於テ遷延ヲ重ネ殆ント誠意無キ

ヲ思ハシムルモノアリ又交渉案件中盛京時報ノ解禁ハ約セ
ラレタルモ吉林黒龍江兩省ハ未タ解禁セラレス帽兒山設置
問題ハ未決ニシテ不当課税ノ交渉又進捗セス鐵道問題ノ交

短時間ニテハ申上兼ヌル事情アリトテ本件ニ触ルルヲ避ケ
タリ尚劉ハ自分ノ今回ノ入京ハ主トシテ奉票維持問題ノ交

ナリト語リ居タリ

奉天へ転電セリ

涉ハ滿鉄ニ委ネラレタルモ之亦何等纏リタルモノナク而モ

今ヤ無線電信問題モ亦奉天派ノ為ニ更ニ紛糾ヲ加ヘントス

ルハ御承知ノ通ナル処右交渉ノ遲々トシテ進行セス其実績

ノ挙ラサルハ主トシテ南方側ノ勢力振ハサル為近來奉天派

ノ地位安固ヲ加ヘタルニモ依ルヘク又或ハ場合ニ依リ本邦

政局ノ推移ヲ観望シツツアル為ニモ依ルヤモ計リ難キモ要

スルニ今後交渉ノ継続ハ奉天派勢力動搖ノ時期ヲ待ツカ又

ハ曩ニ本庄中将ヲ經テ伝達セラレタル閣下ノ御伝言中ニア

ルカ如キ新ニ深甚ナル考慮ヲ加ヘラレ客年九月二十八日付

亞一機密第二四九号貴信末段ノ断乎タル手段ニ出テラルル

カ二者其ノ一ヲ選ハサルヘカラサルノ時機ニ到達シタルヤ

ニ思考ス

(往電第二四二号暗送セリ)

奉天ニ転電セリ

編注 昭和期I第一部第一巻第一七七文書参照。

(付記一)

(昭和三年三月十日稿)

奉天派ノ対日態度並ニ関税増徴問題ニ対スル対策トシ

テノ南北和平提議

一、奉天派ノ日本ニ対スル態度

張作霖ノ今日有ルヲ得タルハ日本ノ直接間接ノ庇護ニ因ル

モノトシテ我ヲ德トスヘキニ拘ラス從来動トモスレハ反抗

的氣分サヘ無之キニアラサリシハ甚タ不都合ナル次第ナル

カ少クトモ彼カ郭松齡事件ニ殆ント失脚ノ憂目ヲ見而モ尚

再生シ得タル以後ハ之レヲ以テ日本ノ同情後援ノ賜ナリト

シテ一一我ニ聽從セサルヘカラサリシニ事実ハ之ニ反シ日

本ノ意見ニ反シ野望ヲ抱イテ閨内ニ入り三省ノ財政ト治安

トハ捨てテ顧ミサルカ如キ態度ニ出テタリ加之満蒙交渉前

後ニ於ケル彼等ノ日本ニ対スル態度其他殆ト傍若無人ノ觀

有ルハ誠ニ言語道断ト云ハサルヘカラス東三省ト日本トノ

關係ヨリ云ヘハ單ニ一二ノ鐵道線建設ノ問題カ解決シタリ

トテ我トシテ満足スヘキニ非サルハ勿論ニシテ右ノ外解決

スヘキ問題ハ多々存スル次第ナルヲ以テ日本トシテハ先以

テ今日ノ如キ奉天派ノ無誠意無理解ナル態度ヲ覺醒セシム

ルヲ第一義トス

現内閣成立以来奉天派ニ対シテハ直接間接ノ方法ニ依リ東

三省実權者ヲシテ彼我ノ密接微妙ナル關係ヲ察知セシメ以

(一) 打通線ニ対スル抗議ハ日本側ニ於テ撤去セルニアラサ

ルヲ以テ此際抗議ヲ新ニシテ支那側ニ於テ応セサルト

キ

要セムトスル際

(二) 打通線ニ対スル抗議ハ日本側ニ於テ敷設セムトスルトキ

等ナルカ吾人ハ日本ヲシテ断乎タル態度ニ出テシムルニツ

キ上記ノ何レヨリモ自然ニシテ且ツ各方面ヨリノ非難少カ

ルヘシト想像セラルル一案有リト信スソハ適當ナル機会ニ

先ツ支那南北ニ対シテ和平ヲ勧告シ以テ転機ヲ策スルコト

之ナリ

三、和平勧告

支那ノ政情不安定ハ内外人ノ等シク迷惑至極トスルトコロ

ニシテ近時南北和平ハ軍閥ヲ除キタル各方面ノ一致シタル

希望トモ云ヒ得ヘク日本ニ於テモ實業家及操觚者ノ一部ニ

於テ其ノ声ヲ揚ケムトスル氣運ニ在ルヲ以テ和平其ノモノ

ノ成否ハ兎ニ角此氣運ニ乘シテ和平ノ勧告ヲナスコトハ曩

ニ我国ノ率先提唱シタル武器禁輸行問題ト共ニ現政府ノ

平和的政策ノ現ハレシテ好評ヲ博スルコト疑ナシ

南北和平ハ各方面ノ希望ナリト雖モ其ノ成否ニツイテハ吾

人ハ成定三分不成定七分ノ見当ナリト云フヲ憚ラス然レト
モ幸ニ成立ストセハ仮令短期ノ和平ナリトモ左ノ如キ利益
有リ

(イ)一時ノ小康ニ依ル商民ノ安慰

(ロ)関税会議再開ノ機会ヲ得シム

(ハ)日本トシテハ山東出兵ナル機微ナル問題ヲ避け得ヘシ
若シ此和平ニシテ南方一部ノ考ヘ居ルカ如ク三民主義ト青
天白日旗ノ下ニ南北両方ノ提携成リ中央ノ政府ハ張学良楊
宇霆其他ノ奉派ノ要人ヲ加ヘタル委員ニ依リテ統轄セラレ
張作霖カ東三省ノ実權者ニ復帰スルト云フコトトモナラハ
茲ニ支那一般ノ和平ト共ニ三省ヲ中央争覇ノ外ニ置クト云
フ我方希望ニモ副フコトトナルヘシ

(注)東三省ニ利害關係深キ日本トシテ最モ迷惑ナルハ同
地方ノ実權者タル張作霖カ中央政界ニ非望ヲ抱イテ北京
ニ乗出シ戦争ヲ事トシテ東三省ノ治安ノ維持經濟上ノ發
展等ハ毫モ意ニ介スルトコロ無キノミナラス同地方面ヲ
擰取セル資金ヲ以テ戰費トナシツツ有ルコト之レナリ張
作霖中央乗出以来東三省ヨリ送金セル戰費ハ五千万弗ニ
達スト称セラレ之レカ為奉天票ノ溢発トナリ金融界ヲ攪

乱セルコト莫大ニシテ東三省ノ破産ヲ伝ヘラルモ之レ
カ為メナリ日本トシテハ金融上ノ混乱ヲ整理セムトスル
モ作霖カ閔内ニアリテ戰費ヲ東三省ニ仰ク限リ其計画ハ
不能ニ帰スヘキカ故ニ作霖ノ野望ヲ捨テシメテ之ヲ閔外
ニ去ラシメサル限り日本ヨリノ援助ノ如キモ到底不可能
ナリ

告ヲナス可シ

右勧告ニ応シテ幸ニ妥協成立スレハ關稅問題ノ如キ出来得
ル丈ケ好意的考量ヲ加フヘク(二月九日付^{六〇}文書付記關稅會議ニ關ス
ル亞細亞局私案参照)若シ不幸ニシテ我方勧告ニ応セス殊
ニ奉天派ニ於テ増稅ヲ一方的に徵収セムトスル場合之レヲ
以テ前記断然タル態度ヲ執ルノ口實ト為サハ頗ル妙ナル可
シ

四、公使及顧問等ノ引上ケト滿鉄沿線ノ増兵ノ効果
公使及顧問等ノ引上ケ及滿鉄沿線ヘノ増兵ハ消極的措置ニ
過キサルモ其効果ハ概ネ次ノ如キモノ有ルヘシ

(イ)段執政失脚以来ノ北京政府ハ各国ノ承認スルトコロノモ

ノニ非サルモ偶々北京カ支那ノ首府タルノ關係上各國ト

モ公使ヲ存置シ居レル為メ作霖ハ大元帥ト称シ其政府ハ

恰モ各国ノ承認ヲ経タルモノナルカ如ク振舞ヒ南京政府
ニ比シ不当ナル利益ヲ得居レリ然ルニ今日本公使ノ撤退
ニ遭ハハ恰モ承認ヲ取消セレタルカ如キ感触ヲ起シ反対
ニ南京政府ハ非常ナル声援ヲ感スヘシ

(ロ)公使顧問ノ撤退ハ日本ノ奉天派ニ対スル悪感ヲ如実ニ語
ルモノナレハ作霖一派カ容易ナラサル事トシテ之レヲ見

(付記二)

* 在支公使引揚案ニ闕スル件

昭和三年(日付不明)

對張作霖諸交渉案件行詰リノ現状ニ対シ我カ強硬ナル態度
ヲ示シテ張ニ反省ヲ強要シ以テ局面ヲ打開スル一方策トン
テ此ノ際支公使引揚ノ手段ニ出ツヘシトノ案ニ付テハ左
ノ如キ不便欠点アリ

一、公使引揚ノ如キ公然タル手段ニ出ツルトキハ之ニ付公
明ナル名目無キ限リ面子ヲ重ンスル支那人ノ性質ニ顧ミ

張ニ對シ予期スル如キ反省ノ効果ヲ生スルヤ疑問ナリ
二、其ノ結果ハ却て對北方關係ノ悪化ヲ來タシ排日運動ノ勃興ヲ見ルヘク滿州方面ノ事態如何ニ依リテハ相當ノ武力ヲ以テ之ニ對スル必要ヲモ生スルニ至ル虞アリ
三、南方側ヲ諒解セシメスシテ此種ノ手段ニ出ツルトキハ其ノ南方ニ對スル反響亦面白カラサルモノアルヘク或ハ之ヲ以テ張ノ地位困難ナルニ乘シ強圧的ニ我侵略的意図ヲ実現セントスルモノナリトシ非難囂々タルモノアルニ至ル虞アリ
四、其ノ間日支關係疎隔ニ乘シ外國側殊ニ露英カ或ハ北方ニ對シ或ハ南方ニ對シテ種々積極的策動ニ出テ為ニ支那ニ於ケル我カ地位一層困難ヲ加フルニ至ル危險アリ
五、公使一旦引揚ケ而カモ張ニシテ容易ニ其ノ態度ヲ改メサルトキハ支那ノ政状転回セサル限り再ヒ公使ヲ帰還セシメ得サルカ如キ破目ニ陥リ其ノ期間長引クニ於テハ對支列國協調上ノ我方ノ立場ヲモ薄弱ナラシムル虞アリ
六、此ノ種我方单独ノ行動ニ對シテハ外國ニ於テモ我行動ノ裏面ニ侵略的意図ノ潛在ヲ疑ヒ我ニ對スル非難攻擊從テ高マルノ虞アリ

（付記三）
吉田 茂記
対満政策私見

（欄外記入）明治聖代中財界不況、政争激甚ナラントスルノ當リ常ニ對外交渉ノ重大事件アリ日清、日露両役是也之レニ依リ財界アリ利權ノ沒収及不当課稅ハ在滿邦人ノ企業ノ發達ヲ阻止シ奉票ノ暴落ハ我綿糸布其他重要輸入品ノ不振ヲ惹起シ官銀号ノ特產物買占、奉票相場ノ人為的上下ハ我特產商ヲシテ遂ニ立チ行ク能ハサランメ更ニ山東河南ノ流民ハ在滿鮮人問題ヲ重大化セシメツツアリ今ヤ我國民ハ經濟ノ膨張、人口ノ增加ニ依リ活力内ニ横溢シテ外ニ伸フルノ自由ヲ欠缺如何ニ内政ヲ整理シ産業ノ振興ヲ計ルモ貓額大ノ島帝國ノ遂ニ鬱勃タル国民的活力ノ収容シ難キニ想到スレハ當今財界ノ不況、国内政争ノ激甚ナラントスルノ偶然ナラス我國民的活動ノ天地タルヘキ支那ノ治平ノ将来セサル限り我民族發展ノ適地タル滿蒙ノ開放セラレサル以上財界ノ恢復繁榮ノ基礎成り難ク政争緩和ス可カラス之レ對支對滿政策ノ一新ヲ當面ノ急務ト為ササルヲ得サル所以ナリ

七、仮リニ此ノ強制手段ニ依リ我カ要求ノ貫徹ヲ見ルコトアリトスルモ結局長ク支那及外國ノ我方攻撃ノ種トナリ遂ニ彼ノ所謂二十一箇条ト同一ノ轍ヲ踏ムニ至ル虞アリ
八、現在ニ於ケル對支懸案問題中關稅其ノ他ノ不当課稅問題及通商條約改訂問題ハ支那南北及列國共通ノ問題ニシテ単ナル對張強圧手段ニ依リ解決シ得ルモノニ非ス果シテ然リトセハ對張懸案事項ノ主ナルモノハ滿蒙交渉及無線問題ナル處無線問題ハ多年ニ亘ル懸案ニシテ又滿蒙交渉ノ具体的要求事項中ニテモ不当課稅ハ前記ノ通リノ性質ヲ有シ盛京時報ノ件モ漸ク解決ヲ見ントスル狀態ナレハ殘ル一二領事館ノ設置ト鐵道敷設ノミナリト云フヲ得ヘシ此等ノ問題解決ノ為前記ノ如キ極メテ危險ナル強制手段ニ出ツルコトハ大局上不得策ナルヘシ

第一、歐州戰後民族自決等一時人口ニ上レル戦争ノ反動的思想ヲ其儘ニ余リ多ク我レノ聽從シ過キタルコト

第二、日支親善、共存共榮等ノ空言ニ捕ハレ過キタルコト

第三、対支國家機関ノ不統一

等ニ帰スヘク之ヲ要スルニ我ニ政治家的経綸ノ欠ケリト云
ノ外ナシ今ヤ支那ハ自ラ多年ノ兵乱ニ苦シミ列国モ亦支
那一流ノ空虚ナル宣伝ニ迷ハセラルコト少ナキニ至リ我
対支政策ニシテ公明至当ナルニ於テハ支那国民及列国ヲシ
テ我ニ聽從セシムルノ難カラサルヘキ機運ニ際会シツツア
リ此機運空シク逸ス可カラス切ニ帝国政府カ断然タル決意
ヲ以テ其政策徹底ヲ期セラレンコトヲ希フ

対満政策ノ一新

対満政策ノ要諦ハ滿蒙ヲシテ内外人安住ノ地タラシムルニアリトシテ之ヲ現為政者タル張作霖政府ニ対シテ徒ラニ要望スルノミニテハ政策ノ徹底ヲ期シ難シ敢テ東三省ヲ我ニ取メント云フニ非ルモ実質ニ於テ我指導ノ下ニ東三省ノ政治ヲ改善セシメ英ノ埃及ニ於ケルト同様ノ治績ヲ挙クルヲ要スヘク即チ交通及財政ニ関スル帝国政府ノ要望ニ対シ須ラク張政府ヲシテ充分ニ之ヲ傾耳尊重セシムルニ足ルヘキ

実行的措置ヲ講スルヲ要ス

第一、交通

日本海及朝鮮ヲ基点トシテ東三省横断ノ鉄道幹線數線ノ敷設ニ付張政府ヲシテ同意セシムヘク閑外京奉線（山海閑奉天間）ニ於テ英國資本家側ノ有スル現地位ヲ我ニ收メ進ンテ支那側ヲ我指導ノ下ニ立タシメ（英國資本家ノ同意ノ開礫炭鉱ニ対スル利益供与ト交換シテ之ヲ得ラルヘキハ同炭鉱ノ「ヤング」氏及「メイヂャー・ネーサン」等ノ自ラ云ヒ且ツ希望スル所ナリ）鉄道新線ノ敷設セラルモ邦人ノ發展ニ資益セサルコト兆昂線若ハ四洮線ノ如クナレハ無意義ト云フヘクサリトテ直ニ商租ノ実施ヲ支那側ニ迫ルモ実状不可ナルモノアルヘケレハ鉄道沿線若クハ主要停車場（南滿州鉄道沿線ヲ含ミ）ノ周囲数平方哩ヲ開放セシメ支那自開商埠地ヲ設定セシムヘク而シテ鉄道自体ノ運用ニ就テモ我ニ相当ナル監理權ヲ有セシメ全滿蒙鉄道ヲ一系統ノ下ニ統一シ其運輸連絡ヲ完全ニセシムヘキナリ

次テ電信、電話、郵便及道路ニ就テモ我ニ相当ノ監理權ヲ収ムルノ要アリ

第二、財政

張ノ軍政ハ奉天財政ヲ紊乱セシメ奉票ハ一時五千元台ニマテ暴落シ人民ノ疲弊、購買力ノ減退ハ我對滿貿易ニ至大ノ影響ヲ來タサシメツツアリ然レトモ七千万円以上ノ輸出超過ヲ示ス滿州ニ於テ奉天財政整理ハ難事ニ非ラス先以テ奉天官銀号ヲ整理シ依テ以テ省財政ヲ監督セハ奉票ノ基礎ヲ固メ省民ノ購買力ヲ恢復セシムルモ容易ナリ進ンテ吉黒両省ニ及ホサハ東三省ノ殷賑期シテ俟ソヘシ是迄財政整理ノ出來サリシハ張ヲシテ我ニ聽從セシムルニ足ルヘキ決意ト強制ノ実力ヲ欠キレハナリ

対満政策ノ結果

滿州富源ノ開發、人民購買力ノ増加、内外人ノ安住ニ依リ先ツ利益ヲ受クルヘキモノノ我タルハ言ヲ俟タス之レ唯ニ我レカ滿蒙ニ近接セル地ノ利ヲ得タルカ故ノミニアラス政治的ニハ多年扶植セル我實勢力ノ存スルアリ經濟的ニハ陸境關稅三分ノ一減ノ特典アリ滿蒙開放ノ結果此地ヲ我經濟的市場トシテ保有スルハ容易ナルノミナラス東三省ノ地広袤我ニ五倍シ而カモ吉黑両省ハ米產ニ適スル処女地ナリ其鉱產、林產ハ我レカ急需スル所我工業原料國民食料ヲ此地ニ仰キ翻テ我工業品ヲ此地ニ供給シテ我經濟的市場タラ

実行的措置ヲ講スルヲ要ス

第一、交通

日本海及朝鮮ヲ基点トシテ東三省横断ノ鉄道幹線數線ノ敷設ニ付張政府ヲシテ同意セシムヘク閑外京奉線（山海閑奉天間）ニ於テ英國資本家側ノ有スル現地位ヲ我ニ收メ進ンテ支那側ヲ我指導ノ下ニ立タシメ（英國資本家ノ同意ノ開礫炭鉱ニ対スル利益供与ト交換シテ之ヲ得ラルヘキハ同炭鉱ノ「ヤング」氏及「メイヂャー・ネーサン」等ノ自ラ云ヒ且ツ希望スル所ナリ）鉄道新線ノ敷設セラルモ邦人ノ發展ニ資益セサルコト兆昂線若ハ四洮線ノ如クナレハ無意義ト云フヘクサリトテ直ニ商租ノ実施ヲ支那側ニ迫ルモ実状不可ナルモノアルヘケレハ鉄道沿線若クハ主要停車場（南滿州鉄道沿線ヲ含ミ）ノ周囲数平方哩ヲ開放セシメ支那自開商埠地ヲ設定セシムヘク而シテ鉄道自体ノ運用ニ就テモ我ニ相当ナル監理權ヲ有セシメ全滿蒙鉄道ヲ一系統ノ下ニ統一シ其運輸連絡ヲ完全ニセシムヘキナリ

次テ電信、電話、郵便及道路ニ就テモ我ニ相当ノ監理權ヲ収ムルノ要アリ

第二、財政

対満政策從来ノ病竇ハ政策ノ目標ヲ誤レルニ非ラス其実行ノ手段方法ノ過テルナリ滿蒙經營ニ依テ以テ我國民生活ノ安定ヲ計ラントスル國策ノ遂行ヲ國力自体ノ發動ニ求メスシテ一ニ之ヲ空漠ナル日支親善ニ求ムルノ結果我上下ヲ挙ヶテ支那側ノ機嫌取りニノミ汲々タラシメ遂ニ自屈ニ陥テ自ラ覚ラサルニ至レルノミナラス事大主義ナル支那人ヲシテ徒ラニ驕慢ナラシメツツアリ固ヨリ支那側ノ善解好意ヲ求ムヘキハ當然ナカラ之レ國力自体ノ發動ヲ覺悟シテノ後ナルヘキモノニシテ他國領土ニ國力ノ進展ヲ企画スルニ相手方ノ好意ニノミ訴ヘテ成功セル國際ノ例アルリ相手方ノ好意ニシテ我國領土ニ國力ノ進展ヲ企画スルニ相手方ニ不評ナレハトテ躊躇逡巡スヘキニ非ス英ノ印度政策ハ固ヨリ印度人ノ好感ヲ以テ迎ユルトコロニ非ス佛人ハ「アルゼリヤ」ニ人望ナケレハトテ其國策ヲ放擲セス米人ハ中央亞利加ニ於テ蛇蝎視セラレツツアリ何レノ土人ト雖モ侵入者ヲ簞食壺漿シテ迎ユルモノナカルヘキニ独リ我ハ對

支対滿政策ノ遂行ヲ期スル一面ニ支那ノ排日感情ヲ恐ル真ニ了解ニ苦シマサルヲ得ス対支対滿發展ヲ企図スル以上排日ハ覺悟スヘク況ンヤ支那ノ排日運動ノ恐ルヘカラサルハ既往ノ事例之ヲ示ストコロ且ツ滿州ニ於テハ支那側ノ敢テ之ヲ為シ得サル事情ニアルノ明カナル以上我国策ノ遂行ニ何ノ遲疑スル要アランヤ思フニ張作霖ノ軍政ハヤカテ各方面ニ破綻ヲ來スヘク滿州ノ治安及財界ノ混亂ハ期シテ俟ツヘキ所之カ當面ノ対策ハ機会アル毎ニ先ツ天津、山海關、洮南、吉林、臨江、間島ノ各地ニ増兵若クハ派兵ヲ断行シ

閔内ノ兵乱ノ滿州ニ波及スルヲ防キ進テ張政府ニ對シ施政改善ノ要求ヲ致スヘキナリ施政改善ハ曩ニ大正十五年四月

帝国政府ノ名ニ於テ張ニ對シ奉天總領事ヲシテ要望セシメタリ

同年九月奉天總領事ハ奉天省財政ノ紊乱ヲ指摘シ遂ニ我財政顧問ヲ入ルル同意ヲ一應張ヨリ取付ケタリ昭和二年八月以上ノ交渉ニ基キ奉天總領事ハ更ニ奉天省政府ノ失政ニ対シ其反省ヲ促セリ此等ノ事実ハ今後帝国政府カ施政改善ノ具体的交渉ヲ張ニ對シテ開始スルノ素地トシテ充分ナルヘク我準備ノ完了次第何時ト雖張ニ迫リテ我政策ノ徹底ヲ期

スルニ毫モ差支ナシト確信ス其成否ハ一一我決意ト政府諸機関ノ完全ナル協調ノ完成如何ニ存ス

(欄外記入) 昭和三年四月二十七日次官ヨリ下カル

8 昭和3年5月(19)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

張作霖の対日態度軟化について

別電 同日付在中国芳沢公使より田中外務大臣宛第
六七八号

江藤帰奉後談合開始に於ける劉尚清省長宛張
作霖書簡要旨について

本省 5月19日後着

*第六七八号

本使発奉天宛電報第六五号

主トシテ時局ノ關係ト濟南事件ノ為ニヤ最近張作霖ハ我方ニ對シテ好意ヲ表シ来リタルカ如ク鐵道問題モ順調ニ進捗シタル次第ハ既ニ御承知ノコトト察スル處張ハ今回貴地通過帰朝ノ筈ナリシ江藤ニ概要別電ノ通リノ劉省長宛書簡ノ

託送ヲ依頼シタル趣ナリ尤モ右ノ裏面ニハ江藤、町野等張ニ接近シ居ルモノカ張ノ對日本關係ヲ好クスル為慾憲シタル節ナキニアラサルモ尚最近張自身ノ意向ノ一端ヲ窺ヒ得

ヘク貴地諸懸案解決上御参考迄ニ電報ス尚江藤ハ急ニ帰朝ヲ中止シタルモ右書簡ハ十八日當地發滿鉄穗積ニ託シ鎌田ノ手ヲ經テ劉省長ニ送リ届クル筈ナル趣ナリ
別電ト共ニ大臣ニ転電セリ

(別電)

*第六七八号

北 京 発
本省 5月19日後着

9 昭和3年5月(24)日 在奉天林(久治郎)總領事より
田中外務大臣宛(電報)
張作霖滿蒙五鉄道借款協定調印の事実に關し
芳沢公使へ回電方依頼について

奉 天 発
本省 5月24日後着

第二四一號
本官発在支公使宛電報

第一九八号

大臣宛貴電第七三五号ニ閏シ

信スヘキ筋ヨリノ聞込ニ依レハ滿鉄五鉄道ニ閏スル借款協定ニ對シ最近張作霖ニ於テ調印シタリトノ趣ナルカ右ハ事実ナリヤ又ハ之ト似寄ノ事実ニテモ有之ヤ閣下御承知ノ点御差支無キ限り本官舍迄御回電煩シ度シ

大臣ニ転電セリ
決シ固持スルヲ要セス但關係重大ニシテ輕々讓歩シ難キモノハ依然公式外交手段ニ基キ慎重ニ處理スヘシ右ハ通常ノ

10 昭和3年6月27日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛（電報）

我が対満経済的発展の基礎確立のための交渉
に関する意見具申について

付記 四月 林總領事

「奉天在勤ヲ命セラレ赴任ニ先チ実現希望事項」

* 第三六九号

奉天 発 本省 6月27日後着

張作霖遭難事件以来東三省政局カ急転シツツアルハ御承知ノ通ナルカ作霖遭難直後ニ於テハ事件ノ余リニ突發的ナリシト一時ニ張、吳両巨頭ヲ失ヘル為メ之之建直シ其ノ他内外事態ノ鎮静ニ付支那側ニテ鮮カラス苦慮セルハ張作霖ノ秘喪帰還部隊ノ處理方法対日事端防止ノ為ノ極端ナル消極策等種々ナル方面ニ現ハレタルカ時日経過ト共ニ民心ノ不安薄ラケル一方省幹部等ノ諸般ノ対策逐次其ノ方向ヲ得並ニ最近張學良ノ督弁就任ヲ見ルニ及ヒ漸ク愁眉ヲ開キ今後徐ニ三省自治軍民分治保境安民ニ対スル善後策攻究ニ着手セントスルモノノ如シ去リ乍ラ三省政局ハ寧ロ之ヨリ愈々

複雜多岐トナルヘク即チ三省自治連省問題ト其ノ間自己ノ地盤獲得ニ汲々タル新旧軍閥ノ勢力争ヒニ加フルニ閔内各政派ノ対満策動トハ三省ヲシテ今後漸次閔内各省ト同様ノ形ニ於テ支那内乱ノ渦中ニ投セシムルニ至ル可ク此ノ点帝國トシテ最モ注意ヲ要ス可キ点ナリ然ルニ近時我対満政策遂行ハ内外諸般ノ事情ニ駆ラレ何レカト謂ハハ梗塞状態ニアリ支那側亦事毎ニ我ニ抗シテ懸案徒ニ堆積シ遂ニハ從来当地方ニ見サリシ排日運動ヲスラ誘発シ偶々帝國政府ノ声明ニ基ク関東軍ノ奉天集中以来排日ハ表面寧ロ恐日ト化シ所謂無抵抗主義ノ態度ヲ示シ居ルモ右ハ一時的ノ現象ト見ル可ク今後政局ノ安定関東軍ノ原駐地帰還南方派トノ妥協促進等成ルニ従ヒ逐次再ヒ排日風潮ヲ一層惡辣ナル手段ヲ以テ擡頭セシムルニ至リ我対満政策遂行愈々困難ヲ加フ可シト考ヘラル果シテ然ラハ現在東三省政局更新一転機ノ今日ニ於テ日支協力ニ依ル円満ナル關係ノ下ニ我対満経済的發展ノ根本基礎ヲ作り置ク事最モ緊要ノ次第ニシテ現ニ三省首腦部側昨今ノ態度モ大体ニ於テ我ト協調ノ必要ヲ認メ居ル如ク

旁此ノ際出来得ル限り速ニ右基礎ヲ具体的ニ確立スル為メ

彼我誠意ノ存スル処ヲ明カニシ出来得可クンハ之ニ関スル公文交換ノコト

(二) 支那側ニシテ右ニ同意セハ保境安民実現ノ為左記諸件ヲ実行セシム

(イ) 東三省財政整理建直シヲ行ヒ之カ為我臨時財政顧問ヲ招聘ス

(ロ) 東三省軍備整理ノ為我臨時軍事顧問ヲ招聘ス

(ハ) 日支互讓ノ精神ヲ以テ諸懸案（例ヘハ鐵道、鉱山等）解決ヲ期ス但シ解決方法ハ適宜当事者ニ一任スルコトアルヘシ

(三) 土地商租ノ実現

(四) 以上ノ我交渉ニ對シ支那側ニテ依然何等誠意無キニ於テハ我ニ於テモ別段考慮ヲ為ス可キ旨仄カスコト

右開陳ノ卑見ニ關シ何分ノ御詮議ヲ希望ス

北京へ転電セリ

（付記）

昭和三、四

(一) 三省最高権力者又ハ之ニ代り得ヘキ適當ノ相手方ニ対シ
折角注意シ居ル次第ナルモ幸ヒ其ノ機會到来シタル場合ハ
直ニ當方ヨリ右交渉開始ヲ為シ得ル様今ヨリ予メ準備シ置
キ度之カ具体的交渉方針ニ付テモ固ヨリ熟慮スヘキ点アル
モ不取敢大体左記方針ニ依ルコト適切ナラサルヤニ思考セ
ラル

滿蒙日支關係ノ経過及将来ヲ説キ今後兩者間真ニ提携ノ
必要アルヲ切実勧告ノ上東三省保境安民ノ実ヲ期スル為

林總領事

一、在満陸軍諸機関ノ対支交渉ハ總テ其地所管領事ヲ經由スルヲ原則トシ直接之ヲナス場合ニハ當該領事ノ承認ヲ経ヘシ

我對外交渉ハ在外公館ヲ通スルヲ原則トスレトモ満州ニハ我陸軍諸機関ノ存在スル關係上時ニ例外トシテ支那側ニ対シ直接ニ交渉スルコトナキヲ保セス之力為メ

狡猾ナル支那官憲ヲシテ我外務陸軍兩機関間ノ間隙ニ乗セシメ所謂二重外交ノ弊ニ陥ル危険アリ此弊ヲ向後絶對ニ無カラシムル為ニハ両機関対支方針ノ絶對一致ヲ必要トシ支那側ニ乗スル隙ヲ与ヘサル為例外トシテ陸軍機関カ直接交渉ヲナス場合ニハ總テ予メ當該領事官ノ承認ヲ經ルコトトナスノ必要アリ

一、満鉄ノ滿蒙ニ閔スル重要ナル対支交渉ハ總テ予メ奉天総領事ノ承認ヲ經ヘシ

満鉄カ當利機関タル關係上支那側ニ利ヲ喰マシメ易キタメ時ニ対支直接交渉ヲ得策トスルコトアリ然レトモ我對滿蒙交渉ヲ統一シ權威アラシムル為ニハ在外公館長ノ交渉ヲ主トシ其他諸機関ノ其ヲ從トシ且ツ支那側

二乗スル隙ヲ与ヘサル様注意ヲ要スルコト前項ノ場合ニ同シ依テ向後満鉄ノ満蒙ニ閔スル対支交渉ハ交渉場所ノ如何ニ拘ラズ其主ナルモノハ必ス予メ奉天總領事ト打合セヲ要スルコトシ度シ

(欄外記入一) 内閣總理大臣兼外務大臣(花押)

(欄外記入二) 陸軍大臣付箋ノ通(花押)

(付箋) 所謂「対支交渉」ノ意義明瞭ヲ欠クモ「一般的外交」ノ意向ナラハ陸軍トシテハ從来ト雖モ本趣旨ニ反スル行動ハ執ラサリシ筈ナリ

他ノ諸外国内ニ於ケルト異ナリ特定ノ任務ヲ以テニ満州ニミ駐在シアル陸軍諸部隊ハ其任務ノ実行上日常公私共ニ支那人ト交渉アルヘキヲ以テ事ノ公然國際的交渉ニ委スルヲ要セサル事項ニ就テハ適宜處理スルヲ至当トシ殊ニ事ノ軍機ニ關シ若クハ軍固有ノ任務ニ閔スル事項ニ就テハ一々領事ヲ經由、又ハ其承認ヲ經ヘキ限りニアラスト思考スルヲ以テ本希望モ此種ノ事項ニ迄モ亘ラントスルモノニ非ス要ハ現在ノ如ク各々実情ニ適スル行動ヲ執ルト共ニ事ノ外交ニ影響アルコトハ機ヲ逸セス協調スルノ意ニ

外ナラスト解釈ス(印)

編注 欄外記入(一)(二)にある花押は内閣總理大臣兼外務大臣田中義一および陸軍大臣白川義則であり、付箋は白川陸軍大臣によるものである。

11 昭和3年7月9日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛(電報)

奉天省財政整理および商租権問題に関する張
学良の談話報告について

奉天

本省

7月9日後着

第四一一号

任地遼羅ニ於ケル事情ヲ説明シ外国人ヲ顧問トシテ財政ヲ整理シ貨幣制度ヲ確立セルコト及多数ノ外国裁判官ヲ傭聘シ立法、司法ニ参与セシメ法典ノ改正ヲ行ヒ今日漸ク領事裁判撤退ニ成功セル実例ヲ説キ聞カセ置キタリ尚東三省ニハ日支両國間ニ幾多ノ懸案アリ本官着任以来二ヶ月余ノ間時局ノ為未タ是カ解決ニ閔スル調査ヲ始メサリシモ時局安定シツツアルヲ以テ近ク是カ円満ナル解決交渉ヲ開始スル時期來ルヘキ旨ヲモ語リ聞カセ置キタリ御参考迄北京へ転電セリ

12 昭和3年7月13日 有田(八郎)亞細亞局長起草

対中國一般および対滿蒙方針について

昭和三年七月十三日起草案

大臣ノ命ニヨル 有田

第一、一般方針

省長ノ健康抄々シカラス旁官銀号ノ制度モ決定セス從テ未タ何等具体的ノ進捗ナシ商租ニ閔シテハ自分ハ予テヨリ領事裁判権ヲ撤廃シテ土地所有ヲ許スコトシ度ク考ヘ居レリト述ヘタルヲ以テ本官ハ何等意見ヲ述フルコトヲ避ケ前

一 滿蒙懸案解決交渉

(欄外記入二) (欄外記入一)

スルヲ原則トシ直接之ヲナス場合ニハ當該領事ノ承認ヲ経ヘシ

我對外交渉ハ在外公館ヲ通スルヲ原則トスレトモ満州ニハ我陸軍諸機関ノ存在スル關係上時ニ例外トシテ支

那側ニ対シ直接ニ交渉スルコトナキヲ保セス之力為メ

狡猾ナル支那官憲ヲシテ我外務陸軍兩機関間ノ間隙ニ

乗セシメ所謂二重外交ノ弊ニ陥ル危険アリ此弊ヲ向後

絶對ニ無カラシムル為ニハ両機関対支方針ノ絶對一致

ヲ必要トシ支那側ニ乗スル隙ヲ与ヘサル為例外トシテ

陸軍機関カ直接交渉ヲナス場合ニハ總テ予メ當該領事官ノ承認ヲ經ルコトトナスノ必要アリ

一、満鉄ノ滿蒙ニ閔スル重要ナル対支交渉ハ總テ予メ奉天

総領事ノ承認ヲ經ヘシ

満鉄カ當利機関タル關係上支那側ニ利ヲ喰マシメ易キ

タメ時ニ対支直接交渉ヲ得策トスルコトアリ然レトモ

我對滿蒙交渉ヲ統一シ權威アラシムル為ニハ在外公館

長ノ交渉ヲ主トシ其他諸機関ノ其ヲ從トシ且ツ支那側

対支方針ノ基調ハ要スルニ貿易ノ増進ヲ計リ經濟關係ノ緊密ヲ期スルニ在ルヲ以テ支那ノ主權ヲ尊重シ不干渉主義ヲ持スルト同時ニ門戶開放、機會均等ノ原則ヲ遵守シ支那国民トノ感情融和ニ意ヲ用フルヲ以テ第一義トス從ツテ同國

民ノ正当ナル希望ニ対シテハ其ノ合理的斬新的達成ニ協力シテ努メテ列国ト協同シテ其ノ実現ヲ期スヘキモ之レカ為メ支那人ヲ增長セシメサル様細心ノ注意ヲ加フルヲ要ス但シ在留邦人ノ生命財産ニシテ不法ニ侵害セラルルノ虞有ル場合若クハ暴力ヲ以テ我権利利益ヲ侵害セムトシ嚴重ナル戒告ヲ加フルモ尚改ムルコト無キカ如キ場合ニハ支那ノ現状ニ於テハ必要ニ応シ自衛ノ措置ヲ講スルハ已ムヲ得サルトコロナリ

支那ニ対スル一般ノ方針ハ上記ノ通リナルカ国民政府ノ承認問題、条約改訂、南京遷都問題等ニ対シテハ大体左記ノ方針ニ依ルヲ可ナリトス

一、承認問題

国民政府ニ対シ承認ヲ与フルノ時期ハ国民會議ヲ開キ憲法ニ依リテ正式政府ヲ組織スルヲ待ツヲ要セス現在ノ如キ所謂臨時政府時代ト雖モ其ノ基礎安定シ苟モ國際義務ヲ履行スルノ誠意ヲ認ムルニ足ルノ時期ニ達スルニ於テハ之ヲ承認スルコト然ルヘシ只現在ノ国民政府ノ状態ヲ見ルニ軍閥相互ノ関係定カナラサルノミナラス動トモスレハ既存条約ヲ廢棄シ國際契約ヲ蹂躪シ債務ヲ否認セム

戒告ヲ加フルモ尚改ムルコト無キカ如キ場合ニハ支那ノ現

状ニ於テハ必要ニ応シ自衛ノ措置ヲ講スルハ已ムヲ得サルトコロナリ

支那ニ対スル一般ノ方針ハ上記ノ通リナルカ国民政府ノ承認問題、条約改訂、南京遷都問題等ニ対シテハ大体左記ノ方針ニ依ルヲ可ナリトス

一、承認問題

国际法上新政府ノ承認トハ外国政府カ右新政府ヲ以テ当該国家ヲ代表シ其ノ主権ヲ行使シ外国トノ国際関係ニ入ル機関タルコトヲ承認スルモノナルヲ以テ苟モ外國カ新政府ヲ承認スル以上右新政府ハ当該国家ノ名ニ於テ如何ナル国際行為ヲモ為シ得ルモノニシテ其ノ国内法上憲法ニ準拠シ居ルヤ否ヤハ右代表資格ノ性質ニ何等影響ヲ及ホスモノニ非ス又完全承認若ハ不完全承認ノ如キ承認ノ性質ニ関スル区別ハ法律上判然画定シ難キノミナラス何等実益ナキモノナリ右ノ如キ見地ヨ

(註)

リストハ国民政府ニ対シ先ツ不完全(デ・ファクト)承認ヲ為シ次テ完全(デ・ジュレ)承認ヲナスヘキヤ否ヤノ如キハ無用ノ詮議ニ属ス只国民政府カ国家ヲ代表シ其ノ主権ヲ行使スルノ能力ヲ有シ國際義務ヲ履行スルノ誠意ニシテ認ムヘキモノアレハ場合ニ応シ或ハ臨時政府トシテ或ハ正式政府トシテ承認ヲ与フレハ可ナリ

二、条約改訂問題

条約問題ニツキテハ当初ノ方針通り旧条約十カ年存続ノ主張ヲ固執シテ仮令一時的ナリトモ無条約ノ状態ニ入ルコトヲ避ケサルヘカラスト雖トモ同時ニ成ル可ク速カニ新条約ノ締結ヲ見ルニ至ル様最善ノ努力ヲ為ササル可ラス交渉期間ノ三ヶ月宛ノ延期ノ如キハ此ノ上無制限ニ繰リ返シ得ヘカラサルカ故ニ条約改正ノ内容ニツキテモ此ノ際関係各省ニ間ニ更ニ協議ヲ重ネテ讓歩シ得ヘキ最大限ヲ研究スルノ要有ルヘシ

万一支那側ニ於テ此ノ際条約ヲ破棄シテ我国ヲ無条約国タラシムルカ如キ態度ヲ執ル場合ニハ日本トシテハ凡ユル手段ヲ尽シテ其反省ヲ促シ支那側態度ノ変更ヲ強要ス

トルカ如キ傾向ニ在ルヲ以テ如此状況ノ下ニ承認問題ヲ考慮スルコトハ尚早ナリ少クトモ蔣、馮、閻、白諸軍閥相互ノ関係落付キ且ツ中央執監會議及国民代表會議等ノ結果穩健ナル对外方針ノ確立ヲ見タル上ナラサル可ラス承認ニツキテハ予メ各国間ニ意見ヲ交換シテ出来得ル限り同一歩調ヲ執ルヲ可トスルモ無理ニ各國ト歩調ヲ合ハスノ必要モ無ク去レハトテ強イテ他国ニ先ンシテ承認ヲ為サムト努ムル要モ無シ

(註)

国际法上新政府ノ承認トハ外国政府カ右新政府ヲ以テ当該国家ヲ代表シ其ノ主権ヲ行使シ外国トノ国際関係ニ入ル機関タルコトヲ承認スルモノナルヲ以テ苟モ外國カ新政府ヲ承認スル以上右新政府ハ当該国家ノ名ニ於テ如何ナル国際行為ヲモ為シ得ルモノニシテ其ノ国内法上憲法ニ準拠シ居ルヤ否ヤハ右代表資格ノ性質ニ何等影響ヲ及ホスモノニ非ス又完全承認若ハ不完全承認ノ如キ承認ノ性質ニ関スル区別ハ法律上判然画定シ難キノミナラス何等実益ナキモノナリ右ノ如キ見地ヨ

京ニ移シタリトモ公使館ヲ南京ニ移ス時期ハ支那ノ首途ニツキ略々見据付キタル後トスルヲ可ナリトスヘク其レ迄ハ高級外交官ヲ北京ヨリ南京ニ派駐スルコト土耳古ニ於ケルカ如クスヘシ尤モ外交官ヲ派遣スルハ国民政府ヲ承認シタル後トスヘク其レ迄ハ現在ノ如ク南京領事若ハ上海総領事ヲシテ連絡ノ任ニ当ラシムルノ程度ニテ差支無シ

第二、対満方針

満州カ国防並国民生存上日本ニ取り重大ナル利害関係ヲ有スルニ顧ミ同地方ノ治安カ完全ニ維持セラルコトハ日本ノ最モ重視スルトコロニシテ殊ニ同地方ノ赤化ハ帝国ノ極力排除セサルヘカラサルトコロトス

右ノ如ク満州ノ治安ヲ維持スル一方日本トシテハ同地方ヲ内外人ノ居住営業ニ開放セシムルト同時ニ土地ノ利用ニ支障無カラシメ以テ同地方経済開発ノ素地ヲ作ルヲ要ス而シテ右ハヤカテ在満鮮人問題解決ノ要諦ナリトス

如上ノ関係ハ満州カ支那本部ト離レ自治ヲ行フニヨリテ最モヨク実現セラルモノト信セラルルカ故ニ日本トシテハ満州ノ実権者ニシテ支那本部ト離隔セムトスルモノ有ル場

合ニハ同情ヲ以テ之レニ対シ其ノ傾向ヲ助成スルヲ得策トス現在ノ満州政權ハ今ヤ国民政府ト不即不離ノ關係ニ在ルモ将来漸次ニ之レト離隔セムトスルノ方針ヲ執リ居レルカ如キヲ以テ場合ニ依リテハ必要ナル援助ヲ与フルモ満州ヲシテ支那本部ヨリ分離スルノ傾向ヲ助長セシムルコト得策ナルヘシ但シ其ノ方法露骨ナルニ於テハ歐米諸国ノ非難ト支那國民ノ反対ニ逢着シテ其蒙ル損害計ルヘカラサルモノ有ルヘキカ故ニ此ノ点ニツキテハ細心ノ注意ヲ払フヲ要ス日本ハ満州ニ対シ特殊ノ利益ヲ有シ此ノ關係ハ漸ヲ追ウテ益々之レヲ濃厚明確ナラシムルヲ要スルモ重キヲ支那本部ニ置クニ過キテ満州ノ特殊性ヲ忘却スルノ不可ナルカ如ク眼ヲ満州ノミニ固定シテ広大ナル支那本部ヲ忘ルノ愚ナルハ言フ迄モ無シ故ニ日本カ満州ニ対シテ執ルヘキ手段方法ハ支那本部ト諸外国トニ及ホス影響如何ヲ顧慮シテ緩急寛厳宜シキヲ得サルヘカラス

北満州ニ於ケル露國トノ關係ハ露國勢力範囲ノ撤廃セラレタル今日別ニ同國ニ遠慮スルノ要無ク我カ經濟的進出ノ如キニ関シテハ特ニ然リトスルモ東支鐵道ニ對スル露國ノ權利ト利益トハ之レヲ尊重スルノ態度ニ出テサレハ無用有害

ナル軌轍ヲ同國トノ間ニ生スル虞有リ東支鐵道ニ關スル露國ノ権利利益ハ之レヲ尊重スルモ同時ニ日本人朝鮮人ノ北滿州方面ニ於ケル經濟活動ハ今後益々奨励スヘキノミナラス同地方ニ於ケル共産党分子ノ蠢動ニ對シテハ日本トシテハ場合ニ依リテハ自衛的措置ヲ取ルノ覺悟アルヲ要ス要之南北満州ヲ内外人安住ノ地トシテ其ノ經濟發展ヲ盛ナラシメ同地方ニ於ケル治安維持ヲ完全ニスルコトハ同地方ヲ日露両國間ノ緩衝地帶ト為ス所以ニシテ單ニ日本ノ國防、赤化伝播ノ防止ナル見地ヨリノミナラス両國永遠ノ国交上ヨリモ望マシキコトナリトス

13 昭和3年7月(19)日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛(電報)

土地商租権の実行に關し張学良との強硬なる
交渉実施方について

奉天 本省 発
7月19日前着

北京へ転電セリ

* 第四三三号
十八日土肥原カ張学良ニ面談ノ際学良ハ大体河野ニモ語レ

14 昭和3年7月30日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛(電報)

張作霖の葬儀終了後商租権問題等の満蒙懸案
解決交渉を開始すべき旨意見具申について

奉天 7月30日後着 発

本省 7月30日後着 第四七二号

南北妥協交渉モ一時中止トナリ奉天省長モ選任サレ張作霖ノ葬儀モ八月七日ヲ以テ終了スルコトトナリ一般人心モ稍安定ノ域ニ入ルヘク期待セラル処張學良ヲ始メ東三省幹部ニ於テハ予テ我方ヨリ何等カ特殊要求ヲ提出セスヤトノ不安ノ念ヲ抱キ居ルヤニ見受ケラレスノ如キ状態ニテ経過スルハ支那側ニ無益ノ疑惑ヲ懸ケ彼ヲシテ我ヲ信頼セシムル所以ニアラスト思考セラル就テハ葬儀終了後適當ノ機会ニ於テ我方ノ現在ノ希望ヲ一切率直ニ学良ニ打明ケ彼ノ希望ヲモ聽取リ将来東三省ニ於ケル日支両国人ノ發達ノ途ヲ築ク為ノ協議ヲ為シ大体ノ諒解ヲ取付ケタル上公然省長ニ向テ必要ナル交渉ヲ開クコト致シタク而シテ此ノ際彼ニ對シ如何ナル要求ヲ提示スヘキヤニ閑スル卑見ハ既ニ累次

電票ノ通ニシテ東三省ニ於テ我方カ條約上当然有スル權利ヲ實際上滑カニ活用セシムルコトハ其ノ根本義ニシテ其ノ第一要目トシテ商租問題ニ論及スヘキハ勿論ナルカ本問題ヲ提出スルニ当リ支那側ヨリ代償トシテ領事裁判権ノ撤廃ヲ提議スヘキコト明白ナリ支那ニ於ケル領事裁判権ノ撤廃ハ早晚実現セラルヘキ運命ニ在ルモノト考ヘラレ特ニ東三省ノ如ク内鮮人ノ數殆ト百万ニ近ク将来之ニ幾倍加セシムルノ可能性アル特殊地域ニ於テハ寧ロ相当条件ノ下ニ治外法権ヲ棄ツルノ不可ナラサルヤニ思考セラルルニ付テハ此ノ際彼ノ希望ヲ容レテ領事裁判権撤廃外人土地所有権許可ニ関スル協議ニ誠意ヲ以テ応スルコトト為シ其ノ決定迄ハ邦人ノ大正四年ノ條約ニ依ル土地商租権ノ実用ヲ邪魔セサルコトト為サシメタク尚進テハ東三省ノ施政改善ニ当リ彼ニ於テ希望セハ政治、財政等ノ顧問ヲモ入レ借款ニモ応シ財政整理、実業奨励等ニ尽力スルコトシ此等ノ交渉ハ近ク林大使來奉ノ時機又ハ其ノ前後ニ於テ口切ヲ為シ其ノ後適宜交渉ヲ進ムルコトト致度キニ付御詮議相成度シ北京へ転電セリ

15 昭和3年8月4日 田中外務大臣より

在奉天林總領事宛(電報)

張學良との満蒙問題解決交渉開始時期について

本省 8月4日発

第一四七号 貴電第四七二号ニ閑シ

本件交渉ノ開始時期ニ付テハ林大使張學良ト会談ノ際ニ於ケル先方ノ手答ヘヲ見タル上何分ノ儀申進スルコトト致度シ

北京ニ転電セリ

16 昭和3年8月(6)日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛(電報)

商租権の強行実施について

奉天 発

本省 8月6日後着

第四九三号

(一〇四文書)
往電第四八九号ニ閑シ

17 昭和3年8月(9)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

我が經濟的勢力進展のため満蒙懸案解決交渉
促進について

北 京 本 省 8月9日前着 発

第一一七九号

在奉天總領事發閣下宛電報第四八九号及第四九三号ニ関シ(二〇四文書)
(二六文書)

(一) 帝国カ滿州ノ秩序ヲ維持スルハ帝国自策ノ目的ニ出ツルモノナルカ同時ニ我經濟的生存ノ為メ必要ナルカ故ニ我方ニ於テハ滿州ニ対スル南方ノ不穩ナル勢力ノ侵入ヲ排除スル同時ニ此ノ際滿州ニ対シテ我經濟的勢力進展ノ方策ヲ講スル事必要ニテ從テ林總領事意見ノ如ク大正四年日支條約ヲ初メ其ノ他ノ條約協約ノ実行ヲ迫リ我權利ノ擁護ニ努

ムル事時宜ヲ得タルモノナルヘク而シテ右ハ張學良カ我勅告ヲ排シテ南方ト妥協セントスル場合ハ勿論然ラサル場合ニ於テモ時機至ラハ直ニ實行スル方得策ナルヘク唯

(二) 大正四年ノ條約ハ我方強圧政策ノ一例シテ常ニ排日運動ニ利用セラルル關係モアルカ故ニ表面ハ極メテ穩當ニ出

示スル同時ニ帝国カ滿州ノ秩序ヲ維持スルニ外ナラサルヲ以テ交渉開始ニ当リテハ英米其ノ他ノ主要國ニ対シ我方ノ意向ヲ内示スル自衛上及帝国ノ經濟的存立上已ムヲ得サル処ナルカ故ニ不穩ナル南方勢力ノ滿州侵入(最近ノ例ハ條約廃棄ノ外ニ北京ヲ初メ南方勢力範囲内ノ各地ニ於テハ道路公園其ノ他ノ所有ル場所ニ於テ排日其ノ他ノ「ポスター」貼付セラルルカ如キ)ヲ廢除センカ為ニ張學良ニ対シ南北妥協反対ノ勸告ヲ為シタル次第ニテ右ハ帝国ノ自衛上当然ノ措置タル所以ヲ明確ニシ置ク方後日外國側ノ容疑ト批評トヲ避クルニ効果アルヘシ

申上ル迄モナク不戰條約ニ關シ五月十九日付回答ニ於テ世界ノ或ル地方ノ安寧治安ハ英國ノ平和ト特ニ重大ナル關係ヲ存スルヲ以テ是等ノ地方ニ対スル干渉ハ已ムヲ得サルノ故ヲ以テ英國ハ行動ノ自由ヲ留保シ居リ右ニ所謂或ル地方トハ主トシテ埃及ヲ意味スル趣ノ處埃及ノ英國ニ対スルトヲ避クルニ効果アルヘシ

上敷設ニ取掛ラシメ万已ムヲ得サル外我官憲ノ関与ヲ避クル方却テ実効ヲ挙クヘキヤニ認メラル

(五) 右交渉開始ノ時機ニ就テハ奉天官憲ニ対シテハ張作霖ノ葬儀終了ノ後適當ノ機會ニ實行スルコト然ルヘキモ一応南方トノ關係ヲモ考慮セサルヘカラサルカ南方ノ形勢ハ御承知ノ如ク国民政府ノ基礎必シモ鞏固ナリト云ヒ難キノミナラス馮玉祥ト閻錫山トノ乖離及広東派ト広西派ノ衝突ノ外(唯今歐米ヨリ帰國ノ途ニアリト伝ヘラルル孫科、胡漢民、伍朝枢、汪兆銘、許崇智、鄒魯等カ漸次帰國スル時ハ益々事態ヲ紛糾セシムヘシ)目下広東極端派ノ會議參加問題ニテ紛糾ヲ極メ居レルカ右一般會議ニ參加スルト會議外ニアルトヲ問ハス會議ハ一紛議ヲ免レサルヘキカ故ニ(財政統一案ノ如キハ廣東派ニ於テ容易ニ同意セサルヘキヤニ存ス)此ノ際直ニ我方ヨリ滿州官憲ニ交渉ヲ始メ滿州問題突発スル時ハ南方ノ内訌ハ直ニ滿州ニ転セラレ會議ヲ危機ヨリ救出スルコトナルト同時ニ其ノ結果我滿州交渉ニ支障ヲ來ス虞アルヘキヲ以テ右實行ニ當リテハ會議ノ成行ヲモ考慮ニ入ルヘキ必要アルヤニ思考ス

滿州ノ日本ニ対スル關係トハ必シモ同様ナラサルモ朝鮮ノ治安及平和ノ関スル限り滿州ハ帝国ニ対シ埃及カ英國ニ対スルヨリモ遙ニ密接ナル關係ニアル次第ナリ

(四) 經濟開發問題ノ交渉ニ當リ必然起ルヘキ治外法權ノ撤廃ノ問題ニ關シテハ帝國政府ハ主義上右撤廃ニ御異存ナキ趣天羽書記官ヲ通シテ御訓示ノ次第詳誦シタルモ現在ノ狀態ニ於テハ右撤廃ハ在滿邦人ニ取り可ナリニ由々シキ影響ヲ与フヘキカ故ニ成ルヘク本問題ニ關与スルヲ避クヘクサレト若シ避ケ得ストセハ例へハ治外法權問題ニ關シテハ七月二十五日ノ關稅ニ關スル米支條約ノ如キ形式ノ協定ヲ結ヒテ一時ヲ彌縫スルモ一策ナルヘキモ相手方ハ本問題ヲ提起スル以上或ハ右ニテハ満足セサルヘキカ故ニ右様ノ場合ハ大体在奉天總領事發閣下宛電報第四九三号ノ趣旨ニテ進ムノ外ナカルヘシ唯鐵道契約ノ實行ニ付テハ在奉天總領事發閣下宛電報(一七六文書)第四二三号ノ如ク張學良ニ於テ既ニ吉会及長大五日頃ニハ敷設ニ着手セムトシテ準備中ナルカニ聞及ヒ又他ノ三線ハ當分ハ敷設ニ取掛リ得サル実情アルカ故ニ唯今ノ所ハ右二線ノ敷設ニ止メ先ツ滿鉄ヲシテ支那側ニ交渉ノ

ネテ下野スルヤモ計ラレスサリトテ直ニ其難局ヲ引受ケルモノモナカルヘキカ故ニ右ノ如キ場合ハ暫ク政局混沌トシテ權力ノ中心動搖シ交渉ノ相手ヲ失フニ至ルコトアルヘキハ林總領事ノ予想スル通りナルカ我方ニ於テハ右様ノ場合ヲモ予見シ細心ノ注意ヲ以テ進ムコト必要ト存ス

奉天ニ転電セリ

(別紙)

満州問題解決方針

貴官帰任ノ上ハ別紙ノ趣旨ニ依リ東三省官憲ト交渉ヲ遂ケラレ目的ノ貫徹ニ努力相成度尚細目ノ点ニ付テハ隨時請訓ノ上御措置相成度

18 昭和3年9月24日 田中外務大臣より 在奉天林總領事宛

東三省政権との満州問題解決交渉方針についての訓令

付記

九月十四日付 林在奉天總領事

東三省における土地商租権問題等についての「参考」意見

亞一機密第一五八号

昭和三年九月二十四日

外務大臣男爵 田中 義一

総領事 林 久治郎殿

滿州問題ニ關スル件

シ同地方ノ開放乃至土地利用権獲得ヲ要求スルモ右ハ一定ノ期間（治外法権撤廃準備期間ニ相当スル期間）後ニ之ヲ実行セシムルコトノ予約ヲ為スニ在リ

右予約ハ日支双方ノ声明ヲ以テスルコトヲ可シ即チ（イ）日本政府ヨリハ一定期間ノ後東三省ニ於ケル治外法権ヲ撤廃スルコトヲ声明ス（付属甲案参照）

（ロ）東三省政権ヨリハ右日本政府ノ声明ニ関連シ一定期間ノ後東三省内外人ニ対シ完全ニ開放スルコトヲ声明ス（付属乙案参照）

二、右ノ予約ヲ為サシムヘク要求スルト同時ニ差当リ实行シ得ヘキ事項トシテ大正四年ノ日支條約ニ規定セル（一）南滿州ニ於ケル居住往来ノ自由及（二）商租ノ實行ヲ為サシムル様要求スルコトヲ可シ尤モ右ノ場合ニハ我方ニ於テハ右日支條約ニ規定スル如ク南滿州ニ於テ支那ノ警察課税ニ服スルノ覺悟有ルヲ要ス日支條約ノ實行ヲ要求スルモ從來ノ經緯ニ顧ミ支那側ニ於テモ容易ニ之レニ応諾シ難カルヘキモ我方トシテハ條約ノ履行ヲ迫ルニ過キサル次第ナレハ此ノ際之ヲ主張スルハ當然ナリ

本項ハ東三省政権ト奉天駐在日本總領事トノ間ノ交換公文ヲ以テ明確ニスルコト（付属丙案参照）

三、不取敢東三省政権ニ對シ上記ノ如キ要求ヲ提出シテ交渉ヲ試ミルモ他方通商條約改訂問題ニ關スル国民政府ト

（甲案）日本政府声明案
日本國政府ハ大正十五年北京ニ於ケル法権會議報告勧告ノ三ノ趣旨ヲ採用シ支那全土ニ亘ル治外法権ノ撤廃ニ先チ東三省政権トノ間ニ別ニ協定スル準備期間ノ経過ト共ニ東三省（南滿州鐵道付屬地ヲ除ク）ニ於テ領事裁判権ヲ撤廃シ該地域ニ於ケル日本國臣民ニ対スル支那國ノ法権ヲ回復スヘキコトヲ声明ス

（乙案）東三省政権声明案
東三省政権ハ滿蒙殊ニ東三省ニ於テ門戶開放機會均等ノ主義ニ遵ヒ内外人ノ經濟的活動ヲ促進スルハ同地方ノ平和的發展及慶福ヲ増進スル所以ナルコトヲ認識スルト同時ニ同地域ニ於テ日本國カ其ノ國民的生存上緊密ナル利害關係ヲ

有スルコトヲ認メ且日本国政府ハ同政府ト東三省政権トノ間ニ別ニ協定スル期間ノ経過ト共ニ東三省（南滿州鉄道付属地ヲ除ク）ニ於テ領事裁判権ヲ撤廃シ該地域ニ於ケル日本臣民に対スル支那國ノ法権ヲ回復スヘキ旨ヲ声明シタルニ依リ日本國臣民カ前記領事裁判権ノ撤廃セラレタル地域ニ於テ自由ニ居住往来シ各種ノ企業其ノ他ノ業務ニ從事且動産不動産ノ取得、占有及処分ヲ為スノ自由ヲ有スヘク其ノ他私権ノ享有ニキテモ支那國民ト同様ノ待遇ヲ受クヘキコトヲ声明ス

（内案） 林奉天總領事宛

東三省保安總司令書翰案

拝啓陳者

今回貴國政府ニ於テハ本保安總司令ト別ニ協定スル準備期間ノ経過ト共ニ東三省（南滿州鉄道付属地ヲ除ク）ニ於テ領事裁判権ヲ撤廃シ該地域ニ於ケル日本國臣民ニ對スル支那國ノ法権ヲ回復スヘキコトヲ声明セラレタルニ依リ本保安總司令トシテハ前記領事裁判権ノ撤廃セラレタル地域ニ於テ日本國臣民カ自由ニ居住往来シ各種ノ企業其ノ他ノ業

務ニ從事シ且ツ動産不動産ノ取得占有及処分ヲ為スノ自由ヲ有スヘク其ノ他私権ノ享有ニキテモ支那國民ト同様ノ待遇ヲ受クヘキコトヲ声明致候處右兩聲明中ニ明示セラレタル事態ノ実現ニ至ル迄ノ弁法トシテ茲ニ本保安總司令ハ大正四年日支両國間ニ締結セラレタル南滿州及東部内蒙古ニ関スル條約第二条乃至第五条ニ規定セル事項ノ実施ニ必要ナル手続ヲ執ルコトニ異議無之候ニ付右様御承知相成度此段照会得貴意候 敬具

（付 記）
参考

東三省ニ於ケル我經濟的發展ハ最近數年間ノ状況ヨリ觀ルニ漸次弛緩ノ度ヲ進メツツアリテ今ヤ殆ト行詰リノ状態ニ在リ而シテ此原因ハ主トシテ大正四年ノ日支條約ニ依リ認メラレタル帝国臣民ノ此地方ニ於ケル權益ヲ支那側ニ於テ認許セサルカタメナルヲ以テ行詰リ局面打開ノ要求ハ前記日支條約ノ權益行使ヲ認許セシムルニ在リ換言スレハ滿蒙ニ於ケル積極的經濟發展ハ前記條約ニ依ル邦人ノ商租権行使ヲ自由ナラシムルカ然ラサレハ其ノ他ノ方法ニ依リ滿蒙ニ對スル捨石トシテモ頗ル有意義ナリト思考ス

ニ於ケル土地利用権ヲ獲得スルコトニ依リ初メテ實現スルコトヲ得ルナリ然ルニ商租権行使ニ關シテハ過去十余年間數次ノ日支交渉ニ依リ面白カラサル沿革ヲ作リ居ルヲ以テ之ヲ尋常手段ニ依リ解決スルコト容易ノ業ニアラス刻下ノ状勢ヨリ推シ差當リ土地問題ヲ解決スルノ弁法ハ左記ノ手段ニ出ツルノ他ナカルヘシ

治外法権撤去ヲ条件トシテ完全ナル東三省ノ内地開放ヲ行ハシムルコト

前項実現ニ至ル迄ノ臨時弁法トシテハ今後東三省内地ニ於テ帝國臣民カ土地ヲ商租スル場合ニ於テ支那官憲ハ決シテ

之ヲ妨碍スルカ如キ行動ニ出テサルコトヲ要ス但シ本項実現ニ当リテハ支那側ノ体面モアルヘキヲ以テ不言実行ヲ許

スコトシ帝國政府側ニ於テモ之ニ関シ何等表面的言動ヲ避クルコト

右ノ他日支両國資本家ノ合弁事業ヲ獎励シ合弁ニヨリ我経済的投資ヲ計ルコト

尚且下ノ東三省政治狀態ヲ觀ルニ南方ノ政情特ニ悪化セサル限り南北妥協ハ早晚止ムヘカラサルトコロト認メラルルヲ以テ右実現ニ先チ若シ妥協実現セハ東三省ニ於ケル既得

* 第二一〇号

19 昭和3年10月1日 田中外務大臣より
在奉天林總領事宛（電報）

東三省政権との交渉開始を急ぐべき旨有田亞細亞局長よりの伝達について

昭和三年九月十四日 林總領事

有田ヨリ

交渉時期ニ関スル貴見大臣ニ於テモ一応尤モト考ヘラレタルモ之ト同時ニ余リ遲ルルコトモ諸般ノ関係上面白カラスト認メ居ラレタリ結局時期ノ問題ハ貴官ノ裁量ニ一任スト言ヒ居ラレタルモ其ノ節自分ハ大臣カ成ルヘク早キ機会ニ

交渉ヲ開始シ度キ希望ヲ有セラルトノ印象ヲ得タルニ付右
御含ノ上然ルヘク御措置願ヒ度シ

20 昭和3年10月5日 在奉天林總領事宛（電報）

東三省政権との交渉を速やかに開始すべき旨

訓令

本省 10月5日後0時15分発

* 第二一七号

貴官帰任ニ際シ訓令ノ件ハ南方政情ノ現況ニ顧ミ急速着手
ノ要有リト認ムルニ付貴官ハ最先ノ機会ヲ捕へ交渉ヲ開始
セラレ万難ヲ排シ目的ノ達成ニ努力セラル様致度本大臣
ハ此際特ニ貴官ノ格別ナル努力ヲ希望ス

北京、上海へ転電セリ

奉天 10月6日後着

小官帰任後当地ニ於テ目下進捗中ノ満鉄側ノ鉄道交渉ノ模

貴電第二一七号ニ関シ

小官帰任後当地ニ於テ目下進捗中ノ満鉄側ノ鉄道交渉ノ模
様ヲ見ルニ茲數日中ニ兎角ノ目鼻ヲ付ケ得ヘク観測セラレ
タルヲ以テ満鉄社長トモ商議ノ上小官ヨリ支那側へ表向交
渉開始ハ先方ノ懸引ヲ避クル為數日間延期シ居ル次第ナル
モ裏面ニ於テハ交渉開始後ニ於ケル滑カナル空氣ヲ醸釀セ
シムル為目下關係者ノ総動員ヲ行ヒツアリ依テ茲二三日
中ニ於ケル鉄道交渉ノ模様ヲ見タル上小官ニ於テモ直ニ正
面交渉ヲ開始スヘク尚本件ノ達成ニ當リテハ館員トモ全力
ヲ尽シ閣下御期待ニ背カサランコトヲ期ス

北京、上海ニ転電セリ

21 昭和3年10月(6)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛（電報）

満鉄側鉄道交渉の推移を見たるうえ正式交渉

開始の決意について

22 昭和3年10月(15)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛（電報）

満蒙懸案解決交渉に関し張学良と会談について

⁽¹⁾第六三九号

先月帰任ノ際御訓令ノ土地問題解決交渉ハ御承知ノ通日下
満鉄ニ於テ進捗中ノ鉄道交渉ノ推移如何ヲ見テ開始スル積
リニテ形勢ヲ注意シ居リタル處未タ短日月間ニ解決ノ見込
立タス其ノ間南北ノ關係如何ナル進展ヲ見ルヤモ計リ難キ
状況ニ立至リタルヲ以テ十月十三日午後五時張学良ヲ往訪
シ帝国政府ハ東三省ニ於ケル日支両國ノ緊密ナル關係ニ顧

ミ在来ノ懸案ヲ共存共榮ノ主義ニ依リ速ニ解決シタキ希望

ヲ有スル処當地方ノ政治狀態一応安定セルヲ以テ懸案解決

ノ第一歩トシテ最重要ナル土地問題ヲ交渉セントス本問題

ハ遠ク大正四年ノ日支條約ニ起り其ノ後東三省政府ト我總
領事館トノ間ニ幾度カ交渉ヲ重ネタルモ不幸ニシテ解決ヲ
見ス今日ニ至リタルモノナルカ現政府ハ支那国民ノ抱負ニ

対シテハ充分ノ理解ト同情ヲ有スルヲ以テ貴總司令側ニ於

テ誠意ヲ有スルニ於テハ本問題モ円満ナル結果ヲ見ルヘキ
ヲ信ス就テハ貴總司令ノ意向ヲ承知シタシト述ヘタルニ張

学良ハ土地問題ノ解決ニ当リテハ自然領事裁判權ノ撤廃問

題ヲ伴フ處日本側ニ右撤廃ヲ實行スルノ誠意アリヤ疑ハシ
ト語リタルヲ以テ本官ハ東三省ノ内地開放ニ當リ我方ニ領
事裁判權撤廃ノ覺悟アル事ハ先般林大使來奉ノ砌貴總司令
ニ語リタル通リニテ此ノ点ハ支那國民多年ノ希望及抱負ニ
同情ヲ寄セ且ハ貴總司令ニ對スル好意ヨリ此ノ際先ツ出来
ルタケ速ニ東三省ニ内地開放治外法權撤廃ヲ行ハシメント
スルモノナリト述ヘタルニ学良ハ右地域ハ租借地及鐵道付
属地ヲ含ムヤト間ヘルヲ以テ租借地及付屬地ハ特殊條約ニ
依リ設定セラレタルモノニテ別問題ナリ

唯今ハ一般條約ノ執行区域ニ付テノミ本問題ヲ交渉セント
スルモノナリト答ヘタルニ学良ハ本問題ハ頗ル重要問題ニ
シテ東三省ノミニテ決定スルモ将来中央政府ニテ承認セサ
ルコトアルヤモ計リ難ク從テ交渉ヲ急クノ必要無キニ非ス
ヤト云ヘリ依テ本官ハ東三省ノ土地問題ハ多年ノ懸案ニテ
一日モ速ニ解決スルノ要アリ而シテ從来常ニ東三省政府ト
交渉シ來リタルモノニテ今ヨリ将来樹立スル中央政府トノ
關係ヲ考慮スル必要ナク又實際彼我ノ意見合致スルトシテ
モ領事裁判撤廃迄ニハ貴國側ニ於テ相當ノ準備ヲ為ササル
ヘカラス從テ相當ノ期間ヲ要スル訳ナレハ貴國側ニ於テ是

等条件ヲ研究、交渉スル為特定ノ人又ハ機関ヲ指示セラレ
ンコトヲ望ム次第ナリト述ヘタルニ学良ハ大体如何ナル条
件ヲ付スル積リナリヤト訊セルニ依リ本官ハ是等条件ヲ研
究決定スルコトカ交渉ノ眼目ナリ元來治外法權撤廃ノ条件
ハ暹羅、土耳其等其ノ国情ニ依リ異リ東三省ニ於テモ一定
ノ年限内ニ一定ノ条件ヲ具備セシムルコトトシ其ノ満期ノ
時期ニ於テ治外法權撤廃内地開放ヲ行フコトトン夫レ迄ノ
期間ハ何等カノ弁法ニテ土地利用ヲ日本人ニモ得セシムル
コトトスル必要アリ依テ是等ノ諸問題ヲ交渉スル為ニ特定
ノ人又ハ機関ヲ指示セラレ度シト説明セル處学良ハ本件ハ
重大問題ナルヲ以テ数日中ニ保安会ヲ召集付議シタル上何
分ノ返事ヲ為スヘキ旨ヲ約セリ

約二時間ニ亘ル本日ノ会見ニ於テ本官ノ得タル印象ニ依レ
ハ学良ハ果シテ日本側ニ於テ忠実ニ治外法權ヲ撤廃スルノ
意思アルヤ或ハ羊頭狗肉ヲ壳ルノ類ナラスヤヲ疑ヒ次テ又
斯ノ如キ大問題ハ成ルヘクナラハ将来ノ中央政府ニ委ネ度
希望ヲ有スルモ治外法權撤廃ヲ實現シ得可クンハ勿怪ノ幸
ナリ位ノ考ニテ未タ何等ノ定見無キカ如シ

北京へ転電セリ

24 昭和3年10月(19)日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

滿蒙懸案解決交渉は非公式としたき張学良の

意向について
奉天 発
本省 10月19日後着

*第六五二号

本月十六日奉天省長翟文選ヲ往訪シ往電第六三九号(二二文書)
張学良
ニ申入レタルト同一ノ趣旨ヲ申入レ置キ専ラ当地ニ於ケル

要人連ノ動キヲ注視シ居リ十九日更ニ学良ヲ往訪シ先日申

ハ談合シタルモ未タ保安会ニ諮詢セリヤヲ尋ねタルニ個人々々ニ

十九日午後三時半ヨリ改メテ本件ヲ付議シ然ル後何分ノ回

答ヲ為スヘシト答ヘ尚本件ハ重大且複雜ナル問題ナルヲ以

テ充分ニ研究ヲ為ス必要アリ從ツテ交渉モ非公式ノモノト

シテ余裕アルモノトセラレタシト希望セルニ依リ本官ハ非

公式ニ交渉ヲ纏メテ而シテ後公式ニ委員ヲ任命シ調印スル
事トシテ差支ヘ無キ旨ヲ語リ置キタリ

北京、上海へ転電シ上海ヨリ南京へ暗送セシメタリ

25 昭和3年10月(22)日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

土地商租権および治外法權撤廃問題に関する
非公式交渉開始は時期尚早との東三省側の態

度について

奉天 発
本省 12月22日後着

第六五五号

(二四文書)
往電第六五二号ニ閲シ

二十一日朝王家楨学良ノ意ヲ受ケ來訪シ去ル十九日保安会
ニ於ケル土地及法權問題討議ハ決議的ノモノ無カリシモ大
体ニ於テ本件日本側ト商議ヲ開始スルハ支那側準備整ハサ
ル今日時期尚早ナルヲ以テ先ソ支那側ノミニ依ル下研究ヲ
為スヲ要スト謂フニアリト申述ヘ来レルヲ以テ右支那側ノ
ミノ研究云々ハ過般學良カ非公式ニ日支交渉ヲ開始スルモ
差支ナシト述ヘタルト事實相違セルヲ指摘シタル處王ハ前
回ノ言ハ陶尚銘ノ通訳誤リニテ學良ノ真意ハ自己ノ地盤尚

23 昭和3年10月(15)日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

滿蒙鉄道問題に対する張学良の態度について

奉天 発
本省 10月15日前着

第六四一号

(二二文書)
往電第六三九号(二二文書)
學良トノ会談ニハ鐵道問題ニハ當方ヨリ触
レサル考ナリシカ談話ノ序ニ學良ヨリ目下交渉中ノ鐵道問
題ハ仲々困難ナリト述ヘタルヲ以テ本官ハ夫ハ意外ナリ該
鐵道契約ハ交通部ノ調印セルモノニテ今更交渉ヲ要スルモ
ノニ非ス貴總司令ニ於テ該契約ニ從ヒ局長ヲ任命スレハ済
ム筈ナリ如何ナル次第ニテ困難ナルニヤト質セルニ實ハ内
輪ニ複雜ナル事情アル為ナルカ決シテ實行セスト謂フ次第
ニ非ス只種々言フニ言ハレヌ事情カ内部ニアルヲ思ハス語
リタル迄ナリト述ヘタルヲ以テ内部ノ勢力争等ニテ國際間
ニ既定ノ契約ヲ動カスコトヲ得サル事ヲ語リ聞カセ置ケリ
(吉林へ往電第六三九号転電省略ス)

在支公使、吉林へ転電セリ

堅カラサル今日此ノ種交渉ハ成可ク繰延ヘ度キニアリト答
ヘタルニ依リ本官ヨリ学良ノ不誠意ヲ責ムルト共ニ支那側

ニテ交渉ヲ回避セハ我方トシテハ只既存条約ニ依リ決定ノ

方針ニテ進ムノミナルモ斯テハ彼我ノ円満モ期シ得ス学良

トシテ苦境ニ立ツヘキヲ慮ルカ故ニ交渉ニ依リ双方ノ有利

ニ解决セムトスルモノナル旨申聞ケタルニ王モ了解シ委細

学良ニ申伝フヘキ旨答ヘ引取りタルカ鎌田カ右保安会ノ空

氣ニ付探ル処ニ依レハ少壯派ハ色氣アル様子ナルモ袁金鎧

張景惠等元老ニ於テハ大体尚早論ニ傾キ居ル由ナリ只楊宇

霆ハ寧ロ交渉ニ贊成シ居ルヤニモ伝ヘラル今後学良、楊等

ノ態度如何ニ依リテハ更ニ動キ来ルヘントモ考ヘラルニ依

リ旁本官茲數日中今一応学良ヲ説得シ且他方面ヨリノ誘導

ニ努ムル所存ナルモ前記諸般ノ状況ニ鑑ミ本件交渉開始ノ

段取り迄ニハ尚相当ノ経緯アルヲ免レスト思考セラル（上

海ヨリ南京へ転電ヲ請フ）

北京、上海へ転電セリ

26 昭和3年10月(23)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛（電報）

奉 天 本 省 10月23日後着 発

* 第六五六号
(二五文書)
往電第六五五号ニ閔シ

二十三日張學良ヲ訪問シ前回学良ノ非公式交渉言明ハ誤訛
ナリトノ趣ナルカ果シテ然ラハ甚タ遺憾ナル旨申述ヘタル
ニ学良ハ何分保安会ノ空氣宜シカラサル故如何トモシ難シ
ト弁解セルニ依リ保安会ノ空氣ナルモノモ畢竟スル処總司
令ノ意向如何ニ依ルモノニテ總司令自ラ之レヲ誘導スヘキ
カ当然ナルヘク張作霖ハ在生(世カ)當時我方トノ間ニ充分ナル結
果ハ見サリシト雖兎モ角進シテ交渉ヲ聞キタルニ拘ラス学
良ニ至リ交渉スラ回避セムトスルカ如キハ作霖程ノ誠意モ
ナシト云フ外ナク元來右交渉ハ之ニ依リ今後東三省内彼我
ノ円満ナル提携ヲ期シ延イテハ總司令ノ現地位ヲ一層鞏固
ナラシメムトノ我方ノ總司令ニ對スル好意ニモ出テ居ルモ
ノニテ仮ニ此ノ儘交渉セストセハ我方トシテハ既存条約ニ

27 昭和3年10月(30)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛（電報）

奉 天 本 省 10月30日後着 発

鉄道問題に關する中國側交渉委員任命について

ニ依リ是等ノ点ニモ充分考慮ヲ加ヘ交渉開始ノ氣運ヲ促進
スルコト然ルヘキ旨申聞ケタルニ最初学良ハ自己ノ声望威
力父ノ如クナラストカ本官ヨリ直接保安会員ニ説カレタシ
トカ口実ヲ構ヘテ逃ヲ張リ居タルモ結局自分（学良）トシ
テハ交渉ヲ進メタキ希望ナルニ依リ今一応保安会ニ説クヘ

キ旨約諾セルヲ以テ一先ツ打切りタリ尚会談中妥協問題ニ
付日本トシテハ日本ト南方トノ関係改善セラルル曉ハ兎モ
角然ラサル以前妥協ヲ為スカ如キコトアラハ從來屢次申入
レノ通東三省ニ於ケル帝国ノ立場トシテ條約上ノ権益保護
ノ為無闇心ナル能ハサルカ先般妥協中止ノ経緯ニモ顧ミ為
念申入ルル次第ナル旨申述ヘタルニ学良ハ南方トノ妥協ハ
種々複雜ナル關係モアル為目下曖昧裡ニ過シ居リ自分ノ委
員任命ニ対シテモ今尚不即不離ナルカ三箇月経過セリトテ
直ニ青天白日旗ヲ掲クヘシトハ今ノ處考ヘ居ラサル旨答ヘ
タリ御参考迄

第六六六号
往電第六二五号ニ閔シ

其ノ後鐵道交渉ニ関シ支那側ハ吉敦鐵道ノ工費意外ニ多額
ニ上リシ等ヲ口実トシ既定契約条件以外ニ非公式ニ新ニ幾
多ノ条件ヲ提出シ交渉ヲ遲ラセタルモ漸ク本式ニ交渉委員
ヲ任命スル迄ニ漕付ケタルカ吉林派對奉天派ノ内部的争ア
リ前記委員任命モ爾來種々経緯ヲ経テ最近漸ク兩省交渉員
ノ外ニ王完文、盧景貴ノ四名ニ内定セル如キモ右四名トモ
未タ正式任命ト迄ニ至ラス依テ楊宇霆ヲ慾憲シテ学良ニ委
員任命方至急取運ハシムル様申入ルル予定ト迄ナリタルモ
一方吉林ニ於ケル鐵道反対運動漸ク熾烈トナリ張局長モ一
応辭表ヲ提出セリトノ事ナルカ元來本交渉遲延ノ裏面ニハ
学良及要人連カ列車爆破ヲ根ニ持チ居ルカ為ナリトハ張作

満蒙懸案解決のための非公式交渉開始促進お
よび南北妥協問題に關する張學良との会談に
ついて

相モ楊宇霆モ側近ノモノニ語レルコトアルヤニ伝ヘラレ之ニ加フルニ本鉄道問題ヲ中心トスル張作相対奉天派ノ相互牽制運動モアル為結局ハ委員及局長任命ヲ見ルニ至ルヘシ

トスルモ元来支那側ニテハ出来得ル限り我方ヲ引摺リ遲延曲折ハ免レサルヘク目下斎藤、江藤専ラ奔走シ居ル次第ナ

セシメントノ魂胆モアルコトナレハ右実現迄ニハ尚幾多ノ

曲折ハ免レサルヘク目下斎藤、江藤専ラ奔走シ居ル次第ナ

リ御参考迄

北京へ転電セリ吉林へ暗送セリ

東三省保路運動に関する大公報社説訳報につ

28 昭和3年11月3日 在天津加藤(外松) 総領事より
田中外務大臣宛

昭和3年十一月三日 東三省保路運動に関する大公報社説訳報につ

公信第七一五号

(11月17日接受)

昭和3年十一月三日

在天津

総領事 加藤 外松(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

大公報社説訳報ノ件

東三省保路運動諸君ノ為ニ一解ヲ進ス
(別紙)

訳文

十一月一日大公報ハ其社説ニ於テ大略別紙訳文ノ如キ論説ヲ掲ケタリ
右報告ス

本信写送付先 在支公使、奉天

目下東三省民衆ハ吉会、長大、吉敦各鉄道運動ニ力メツツアリ久シク意氣悄沈セル東三省民衆カ政局更新ノ時ニ際シ地方利害ノ切ナルモノアルニ鑑ミ起ツテ此民衆運動ヲナシツツアルハ誠ニ当然ノコトト云フヘク當局者モ國家ノ前途ヲ慮リ濫リニ之ヲ圧迫スルカ如キコトアルヘカラス蓋シ濫リニ之ヲ圧迫スル時ハ徒ラニ不幸ナル結果ヲ招クニ終ルヘシ前清ノ倒レタルモ四川ノ保路運動ヲ圧迫セシニ始マリシニ非スヤ此際吾人ハ一方當局者ニ慎重ナル態度ヲ持センコトヲ望ムト共ニ保路運動者ニ対シ次ノ注意ヲ喚起セントス

一、吉敦線ノ会寧延長ハ實際上敦化、老頭溝間四十七哩ノ延長ナルカ天図鉄道ハ日本ノ敷設ニ係ルヲ以テ先ツ之ヲ

回収シ敦延線ハ中國自ラ之ヲ敷設スヘシ然ラサレハ我主権ヲ保持シ難シ又吉敦線ハ日本カ其軍事国防上ノ見地ヨリ敷設セルモノナルヲ以テ若シ其營業狀態不良ナルニ放置セハ日本ハ資金ノ欠乏ヲ見トリ吉長線ノ例ニ倣ヒ契約ヲ改訂シ之ヲ其有ニ帰セシメントスルヤ必セリ即チ敦延線ノ自設ト吉敦線ノ整理トハ要中ノ要ナリ

二、日本ノ東三省ニ於ケル鉄道敷設ハ一方富源開発ノ經濟上ノ目的ト他方政治軍事上ノ目的トニ出テタルモノナル

ヲ以テ營業ニハ留意スルナク例ヘハ四洮鉄道ノ如キモ營業不振ニシテ借款元利支払不能ノ狀態ナルカ日本ハ蒙古ヘノ勢力進展ノ為ニ寧ロ之ヲ喜ヒ容喙ノ口実トナサントシツツアリ国防上重要ナル吉敦線ハモトモト外資ヲ入ルヘキニ非ルモコノ点ハ既ニ失敗セル処ナレハ今之カ挽救策トシテ一方速ニ敦延線ヲ自設シ東三省政府ハ日本ト交渉ノ上吉敦線ノ工事ヲ厳重監督シ経費見積ヲ確ニシ冗費ヲ除クト共ニ他方日本ノ立替金二千四百万円ニ対シテハ官民協力シテ償還ニ努力シ再ヒ日本ニ資金ヲ仰クカ如キコトアルヘカラス

三、鐵道ノ軌道ノ曲直、傾斜、車輛ノ排列等ノ如何ハ運輸

能率鉄道価値ニ大ナル關係アルモノナレハ鉄道敷設及管理ニハ用人ニ留意シ綿密ニ規画セシムルノ要アリ東三省從來ノ交通事業ヲ見ルニ工事、營業共ニ粗雜ニシテ中東南滿西鉄道ニ比スヘクモ非ス吉海線ノ如キモ張作相カ軍費ヲ節約シ敷設セシ處ナレ共人ヲ得サリシ為今日ノ不良ナル結果ヲ見ルニ至レリ鉄道敷設及管理ニハ充分ノ注意ヲ払フヘク然ラサレハ仮令現在得タリトスルモ他日失フ処アルヘシ

四、東三省ノ富源ハ無尽藏ニシテ日本カ若シ果シテ物資ノ供給ヲ求ムルノミニシテ領土的野心ナクハ中國自設ノ鉄道多キ程地方ノ生産ヲ發達シ多ク之ヲ供給シ得人民ノ富力増進シ日本工業品ノ販路拡大スヘシ此真ノ共榮ナリ然ルニ日本ハ徒ラニ路權ヲ要求シ中國カ自ラ敷設セントスルニ反対シ妨害スルハ解シ得ス日本ニシテ斯クノ如シトセハ東三省民衆カ日本ノ鉄道ニ関スル要求ニ対シテハ帝國主義的侵略ト目シ一致反対スルハ當然ノ事ナリト云ハサルヘカラス然リト雖吾人ヲ以テ觀スレハ一方外力ノ窮断ニ反対シ一方自ラ建設ヲ行ヒ主權保持ニ力メンニハ富源ハ自ラ開発セラルヘシ

五、日本ノ東三省ニ於ケル両線両港主義ハ將ニ成功セント

ス然ルニ中国ノ吉奉、齊洮鐵道ハ規模成レリト雖連山築港停頓ノ為新線ハ結局南滿鐵道、大連港ノ培養タルニ止

ル況ンヤ運輸能力、管理人材ノ當ヲ得サル現状ニ放任セ

ンカ遂ニ南滿鐵道ニ併呑セラルルノ日アルヘシ

要之吾人ノ吉敦延長反対ニハ根本的弁法ヲ日本ノ鐵道敷設反対ニハ實力的抵抗ヲ要ス吾人ハ主張ス東三省民衆ノ保路運動ハ積極的建設的進取的ナルヘシト

29 昭和3年11月(5)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

土地商租權問題の解決交渉は暫く見合せ鐵道

問題を進行させる方が得策である旨吉田次官

宛意見具申

奉 天 発
本 省 11月5日後着

*第六七五号

客月二十五日付貴電ニ閲シ土地問題ニ關スル交渉ヲ促進セ

30 昭和3年11月(5)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

東三省各方面の反日的空氣を緩和し鐵道問題
の解決交渉を先行させる方針について

奉 天 発
本 省 11月5日後着

*第六七六号

土地問題ニ關スル本官ノ交渉ハ屢次電報ノ通張學良及保安

会要人ニ於テ表面明白ニ拒絶セサルモ未タ我好意ヲ受ケ容

レテ交渉ニ応スル迄ニ熟シ居ラス元來本件交渉ハ本官先般

帰朝ノ節進言セル通現在ノ如キ日支間ノ險惡ナル空氣中ニ
急速ニ之カ解決ヲ求ムルハ頗ル困難ナル事業ニシテ之ヲ過

去数年ノ沿革ニ見ルモ將又今日東三省ノ政界ニ中心人物無

ク學良ニ總司令タルノ實際上ノ權威無キ点ヨリ見ルモ之カ

交渉ヲ迅速ニ進メン事ハ容易ノ業ニ非ス目下滿鉄ノ手ニ於

テ交渉中ノ借款鐵道ノ如キ簡単ナル事件スラ表面拒絶ヲ為

サス種々ノロ実ヲ設ケテ荏苒引キ延ハシツツアル次第ニ

内部ニ奉天、吉林兩派勢力爭ノアルハ疑ナシトルモ學良ニ勇斷ト誠意カ欠ケ居ル為今日ノ如キ羽目ニ立チ至リタル

31 昭和3年11月(9)日 在上海矢田(七太郎)總領事より

田中外務大臣宛(電報)

シムルコトヲ必要トスル御地ノ事情ハ諒解セルモ当地ニ於ケル実情ハ左程簡単ニ運ヒ得ルカ如キモノニ非ス支那側ノ對日反感未タ容易ニ去ラス且表面言動ニ表ハレサルモ内心可成深刻ニ列車爆破事件ヲ含ミ居ルニハ非スヤト疑ハルルノミナラス學良ノ新機関ニ加フルニ脆弱ナル彼ノ地位ト優柔不斷トニテ目下急遽ニ本件交渉ヲ進メ解決セシメンコトハ容易ノ業ニ非サルト同時ニ得策ニモ非スト思考セラル從テ目下ノ執ルヘキ手段トシテハ内政上ノ必要ハ別トシテ一方出来ル丈隱忍シテ空氣ヲ緩和シ他方東亜勸業会社等ヲシテ地方ニ於テ實際ニ土地問題ヲ惹起セシメ事端ヲ繁カラシメテ彼ヨリ進テ我カ交渉ニ応スルノ已ムナキ様仕向クルノ外ナント思考シ其ノ方針ニ向ヒ居レルヲ以テ左様御承知アリタク其ノ間ニ満鉄ノ直屬担任セル鐵道問題丈ハ是非速力ニ進行セシメ度ク夫レニハ今ノ處楊宇霆ノ力ヲ利用スルヲ最善ノ手段トスヘク此ノ間支那側政局ノ推移ハ過去數ヶ月間緊張シ居リシ學良ノ心事漸ク弛緩シ來リ漸次人心ヲ失ヒツツアルニハ非スマト思ハル節ナキニ非サルヲ以テ夫等ノ場合ニ処スル途ヲモ今ヨリ講シ居ル次第ナリ右御含迄

在支公使ニ転電セリ

有田至細亞局長出張の任務に関する新聞報道

について

上海 発

本省 11月9日後着

第八一〇号

九日新聞報ハ南京通信トシテ「日本ハ中日交渉中ノ條約問題、濟南事件等ニ関シテハ相當ノ讓歩ヲ為スヘキモ唯張作霖個人カ日本ト締約セムトシタル東三省吉敦等ノ五路敷設権及商租権ノ承認ヲ強ク要求セムトスルモノノ如シ是レ有田局長ノ來寧セシ重要任務ナリ當時此ノ点ニ関シ中央各委員ニ探リヲ入レタルモ何等表示セヌ同局長モ要領ヲ得スシテ帰國セルカ八日夜某委員ハ記者ニ対シ右五路敷設権ハ關係スル處頗ル重大ナリ若シ日人之ヲ取得セハ其ノ勢力ハ南北ヨリ北滿ニ伸張スヘク又更ニ商租権ヲ与ヘタラムニハ東三省ハ完全ニ日人ノ掌握スル處トナルヘキニ付断シテ承認シ難シ云々ト語レリ」ト報セリ

北京、奉天、南京へ転電セリ

32 昭和3年11月(13)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

鉄道問題に対する張作相の態度に関する張景恵および楊宇霆の談話について

奉天 発

本省 11月13日後着

第六八八号

往電第六八五号ニ関シ(山本社長ノ交渉ニ関スル件)
十一日夜吉林ヨリ帰奉セル張景恵ノ談ニ依レハ鉄道問題ニ對スル張作相ノ態度ハ依然トシテ煮エ切ラサル趣ナルカ右ニ付楊宇霆カ町野及江藤ニ語ル處ニ依レハ作相ノ右ノ如キ態度ハ初メヨリ想像シ居ル處ニシテ結局再ヒ奉天側即チ保安会ノ指令ヲ仰キ来ルヘキヲ以テ其ノ際断然実行命令ヲ發スル事ニ取計フヘシトノ事ナルカ作相ト楊宇霆トノ関係ニ顧ミ果シテ楊ノ言ノ如ク旨ク拂ルヤハ疑問ナリ
公使、吉林へ転電セリ

33 昭和3年11月17日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

政府ハ速ニ一定ノ方針ヲ樹ツル必要アリトノ社説ヲ掲載スル等本件反対運動ハ一般排日風潮ト相俟ツテ漸次輿論ヲ喚起セムトスル傾向アリ

奉天、吉林、長春へ転電セリ

北京における東三省出身学生等の鐵道敷設問題
題に対する反対示威行動について

北京 11月17日後発
本省 11月17日後着

第一五七六号

往電第一五三二号ニ関シ

当地ニ於ケル兩鐵道建設反対運動ハ其ノ後漸次氣勢ヲ加ヘ來リ東三省出身ノ各大學生ニ依リ組織セラレタル路權保持後援会ハ反日會等ノ後援ヲ得テ十三日市内ノ示威游行ヲ為シ滿蒙路權維持、地方外交排斥其ノ他各種ノ排日標語ヲ高唱シ多數ノ排日伝單ヲ撒布セシカ一方最近ノ各漢字紙ハ各大學東三省出身學生會ノ宣言及通電並滿州ニ於ケル反対運動ニ關スル通信ヲ連載シ居リ又十六日ノ新晨報ハ「吉海五鐵道問題」ト題スル見出ニテ大要東三省人士カ國權擁護運動ニ努力シ居ルハ喜フヘキ事ナリ滿蒙五鐵道問題ハ須ラク之ヲ中央ノ交渉ニ移シ以テ地方交渉ニ依ル從來ノ錯誤ヲ矯正シ同時ニ民意ニ基キ之カ回収自弁ノ目的ヲ達スヘシ鉄道ノ建設ニ外資ヲ利用スル事必シモ不可ナラサルモ少ナクトモ国防ニ關係アルモノヲ除外シ又一國ノ壟斷ヲ防ク様

34 昭和3年11月17日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛
東三省政情が鉄道問題その他滿蒙懸案解決交渉に及ぼす影響について
(11月21日接受)

機密公第八九九号
昭和三年十一月十七日

在奉天

総領事 林 久治郎(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

東三省ノ政情ト其ノ我對滿政策ニ及ホス影響
ニ關スル件

張作霖ノ死后今日ニ至ル東三省ノ政局ハ表面日増ニ安定ノ現象ヲ呈シ去夏以来温醜サレツツアル陰惡ナル政潮ハ何

時如何ナル風雲ヲ捲起スニ至ルヤ計リ難キ形勢ニアルコトヲ看取セラルヘシ蓋シ去ル六月作霖爆死ノ直後ニ於テハ事務ノ余リニ甚大急激ナリシト張一家ニ對スル旧部下ノ同情ト將又我國ノ對滿政策ニ對スル戒心トヨリ東三省ノ要人等總司令ニ推戴シテ要人連自ラ集マリテ保安会ヲ作り重要機務ハ同会ニ於テ之ヲ裁断スル組織トナシタルカ此間曾テ作霖時代ニ國務ノ実權ヲ總理セル楊宇霆ハ保安会制度ノ将来ニ不利ナルヲ看取シ之ニ加入スルヲ肯セス且ツ反対派攻撃ノ銳鋒ヲ避クルタメ自ラハ韜晦シテ責任アル地位ニ就カス但從來自己ノ推挽シ來リシ常蔭槐、劉尚清、鄭謙其他ヲ表面ニ立タシムルコトセリ

然ルニ學良カ總司令トナリ我政府亦全力ヲ挙ケテ之ヲ支持スル方針ナルコト明白トナルニ及ヒ要人等ノ間ニハ小康ヲ

得ルニ從ヒ茲ニ漸次新旧両派ノ衝突及勢力奪取競争ノ端ヲ現ハシ先ツ九月瀋州ニ於ケル直魯連軍ノ処分ニ於テ楊宇霆等ノ断乎タル対策ニ對スル張作相ノ同情アル態度ハ簡ニ両者間意見ノ不一致ヲ伝ヘシメタルカ其后我滿鉄ノ吉會長大兩鐵道借款交渉ノ進ムニ從ヒ該交渉ハ両派内争ノ渦中ニ捲

込マレムトスルナキヤノ形勢ヲ示スニ至レリ元來張作霖ノ生存中ヨリ楊宇霆ヲ中心トスル一派ト旧綠林出身又ハ旧派軍人出身ノ張作相、張景惠、湯玉麟、汲金純等トノ關係ハ頗ル面白カラス而シテ御曹子學良ハ楊等ノ野心ト横暴ニ不快ト警戒ヲ持シナカラモ旧派ノ無学無識ヲ輕蔑シ作霖ノ義兄弟タル作相及景惠等ニ對シテモ常ニ輕侮ノ念ヲ抱キテ敬遠シ却テ楊等ト行動ヲ共ニシテモ常ニ輕侮ノ有様ナリキ然ルニ作霖ノ爆死后張作相ハ連合省議会及保安会ヨリ輿望ヲ負フテ保安總司令ニ推サレタルモ性質温厚ノ彼ハ特別ノ野心ヲ抱セス忠実ニ義兄ノ嗣子學良ヲ擁立スルコトニ努メタル為メ危殆ナル三省ノ時局ヲ收拾シ隠然若キ總司令ノ後見役ヲ務メ居タリシモ日支間鐵路借款交渉ノ漸ク複雜トナルニ及ヒ之ヲ避ケムカ為ナルニヤ十月下旬急遽吉林ニ帰任セリ

之ヨリ先キ東三省ニ於ケル交通ノ実權ハ楊派ノ一人タル前交通次長ニシテ現黑龍江省長タル常蔭槐ノ手ニ在リ作霖ノ死后モ東三省交通委員会ヲ作り鄭謙ヲ會長トシ自ラ副会長トナリ依然実權ヲ掌握シ最近我滿鉄ノ交渉開始ニ當リテモ自然常及彼ノ推挽ニ依ル趙鎮王喚文等之カ接衝ノ任ニ当リ

タル次第ナルカ滿鉄ニ於テハ作霖時代ニ吉林方面ノ空氣緩和ニ努メシテ同地方ヨリ強キ反対ニ遭遇セルニ鑑ミ且ハ

今回ハ東三省ニ独裁者ヲ欠ク等ノ点ヲ慮リ旁最近頻リニ同省官民トノ連絡ニ努力スルトコロアリテ相当ノ効果ヲ挙ケツツ在リシカ作相ヲ初メ吉林ノ官民ハ從來同省内ノ鐵道カ余リニ奉天官辺ノ専断ニ处置セラレシニ不満ヲ抱キ今后ハ出來ルタケ同省官民ニ於テモ之ニ参与スヘシトノ抱負アリテ常蔭槐一派ヲ排斥セムトスルノ意思アリ然ルニ之カ対手タル常等ハ實際ニ於テ吉林省內ノ交通権ヨリ排斥セラルル借款鐵道ヲ專行セシメサラムトシツアリトノ噂アリ而シテ此派ノ主動者ハ云フ迄モナク楊宇霆ナリト称セラル權威ト勇氣トナキ為事ヲ成行ノ儘ニ放任シ荏苒決セス為ニ山本滿鉄社長等ヲシテ主トシテ楊宇霆利用ヲ策セシムルノ借款契約ハ實行セサルヘカラスト称シ居ルモ自己ニ専断ノ止ムナキニ至ラシメタル次第ナルカ楊ハ山本社長其他邦人ニ對シテハ両鐵道契約ハ優柔ナル張作相ノ實行シ得ル処ニ

アラサルヲ以テ近ク自分ノ差金ニテ實行セシムヘシト称シ居レリ

楊宇霆及張作相ヲ首脳トセル新旧両派ノ不和ハ上述ノ鐵道問題ニ止マラス熱河問題ニモ及ヒ楊等ハ熱河ヲ保留スルニハ住民ニ不人望ナル湯玉麟ヲ罷免シ民政ハ南方ニ憤ヒテ委員組織ヲ採用シ別ニ駐屯軍ヲ置キテ之ヲ監督守護セシムヘシト主張スルニ對シ湯ハ作相景恵其他旧派ノ後援ヲ利用シ學良ノ勸説ヲ排シテ自ラ退任スルノ舉ニ出テス未タニ諸問題ハ落着セス學良ハ為ニ南方トノ接衝ニ當惑シツアリト傳ヘラレ又近來黑龍江ニ於テ督弁萬福麟ト省長常蔭槐トノ關係円満ナラスト伝ヘラル如キモ此間ノ消息ニ關係ナシトセサルナリ新旧両派ノ不和上述ノ如クナルニ當リ學良ノ之ニ對スル態度ヲ見且ツ彼ノ地位ノ将来如何ヲトスルハ極メテ重要ナルコトナルカ外部ヨリ管見スルトコロニ依レハ學良ハ内心張作相楊宇霆ノ何レモノ勢力増加ヲ悦ハサルモ前者ニ對シテハ無識ナル旧派ノ先輩トシテ遇シ必シモ戒心ノ要ナシトナシ居ルカ如シ之ニ反シ後者ニ對シテハ先年來北京保定等ニ於テモ常ニ行動ヲ共ニシテ來リ今日ニ於テモ重大機務ハ皆其助言ヲ求ムル有様ニシテ學良ハ事實上楊ヲ

最高顧問トシテ遇シ居ルモ真底ヨリ信頼シ居ルニアラス将来自分ニ取テ代ラムトスルモノハ第一ニ楊宇霆ナリト信シ細心ナル警戒ヲ加ヘ居ルモノノ如ク楊宇霆モ亦学良カ自己ニ信頼シ居ルモノニアラサルヲ知悉シ同時ニ学良ハ到底三省首脳ノ器ニアラサルヲ以テ積極的ニ之ヲ倒ササルモ何日カハ自然ニ倒レテ自分ニ御鉢ノ廻リ来ルモノトナシ徐ロニ

其日ニ対スル準備ヲナシツアルヤニ看取セラル

東三省ニ於ケル政情ハ大体上述ノ如クナルトコロ之ニ加フ

ルニ南方トノ関係ハ更ニ之ヲ複雜ナラシムルモノアリ旧派

ハ内心ニ於テモ南方国民党政府ニ聽從スルヲ好マサルモ所

謂民論ニ逆フノ勇氣乏シク之ニ反シ楊等ハ心中必シモ三民

主義ヲ奉スルモノニアラサルモ大勢ニ逆フノ不利ヲ識リ寧

ロ必要ニ依リテハ敢テ之ヲ利用シ野心ヲ実現スルノ具トナ

スヲ辭セサラムトスルカ如シ即チ狡智ニ長ケタル楊ハ一方

表面ハ南方トノ妥協ヲ拒マシテ三省新人ヲ籠絡シ他方日

本側カ優柔ナル学良ニ愛相ヲツカシ只管彼ニ倚頼シ來ルノ

時機ヲ待チ居ルニアラスヤト観察セラル

従テ我方トシテハ東三省ニ於ケル我經濟發展ヲ策スル上ニ

於テ我ト協調スル者ハ之ヲ支持シ協調ヲ肯セサル者ハ之ヲ

ヲ以テ委細申進セリ

貴電特第四号ニ閑シ
松岡副社長ヨリ別電第六九三号ノ通転電方依頼アリタル処
東三省ノ政情等ニ付テハ十一月十七日付機密公(三四文書)第八九九号

ヲ以テ委細申進セリ

(別電)

奉天發
本省 11月18日後着

第六九三号

貴電拝承如何ナル点カ腑ニ落チヌカ知ラヌカ元來目下ノ奉

天政情ハ腑ニ落チヌコトタラケノ事ノミナリ(略字)ハ張作霖去

リ中心ヲ失ヒタル後ハ些カ混沌ノ状態ニアリトノ一語ニ尽

ク從テ鉄道問題ノ交渉ニ付テモ誠ニ難渋ヲ極ム然シ從来社

長ノ方針ノ下ニ行ハレツツアル處ノ画策ヲ根気強く持続ス

ル外ナシト思フ此ノ際焦ルコトハ禁物ナリ社長ヲ信シ社長

ニ一任シテ進マルルノ外良策ナシト信ス委細ハ十九日帰京

ノ筈ナル社長ヨリ聽取ヲ請フ

支持セサルノ根本方針ニ則リ或ハ土地問題或ハ鉄道問題ノ交渉ニ当リ對手方カ張学良ナルト楊宇霆ナルト張作相ナルトハ更ニ問フトコロニアラサルモ折衝ノ実際ニ当リテハ此際出来ルタケ内争ノ渦中ニ捲込マレサル様細心ノ注意ヲ払フコト極メテ肝要ナリト思考ス

35 昭和3年11月18日 在奉天林總領事より田中外務大臣宛(電報)

吉田次官宛電報轉電方依頼について

別電 十一月十八日付在奉天林總領事より田中外務大臣宛第六九三号

山本満鉄社長による交渉を支持すべき旨の松岡副社長の吉田次官に対する意見具申について

大臣宛第六九三号
吉田次官へ

第六九二号
吉田次官へ
奉天發
本省 11月18日後着

第六九二号
吉田次官へ
奉天發
本省 11月18日後着

第六九二号
吉田次官へ
奉天發
本省 11月18日後着

36 昭和3年11月20日在奉天林總領事より
田中外務大臣宛

鐵道問題に關する東三省民報論調ならびに張

學良の東北大学における訓辞訳報について

公第九〇五号

昭和三年十一月二十日
(11月26日接受)

在奉天
総領事 林 久治郎(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

鐵道問題ニ閑スル支那紙ノ論調及排日運動ノ取締振等ニ付テ

本件ニ閑シ当地支那紙ノ論調及排日運動ノ取締振等ニ付テ

ハ往電ヲ以テ不取敢申進メ置キタル處右論調及張学良ノ東

北大学ニ於ケル訓辞大要左ノ通り訳報ス

一、東三省民報 十一月十二日

「民氣ト外交」

弱国外交ハ民氣ニ依リ後援セサレハ其外交失敗ニ至ルハ

公例ナリ然ルニ弱國ノ外交ハ民氣激シキニ過キ軌外ノ行

動ヲ演致セムカ外交亦有害無益トナル公例アリ例令ハ庚子事件ノ如ク當時愛國男兒ヲシテ教会ヲ攻メ西洋人ヲ殺

シ公使館ヲ攻メサラシメハ庚子賠償金又ハ瓜分ノ説ヲ出
タシメス又戦后ニ於ケル独逸ハ賠償金ノ過重ナル前例ナ
ク又ハ土地ヲ占有セラレ不平等ノ待遇ヲ受ケタルカ若シ
独逸人ニシテ軌外ノ行動ニ出テノカ協約ニ依リ直チニ出
兵ノ為其首都ヲ占領シ其人民ヲ統治セラレタルヘシ然ル
ニ独逸人ハ絶対ニ軌外行動ヲ為サス一面理ニ依リ力爭シ
他面不撓不屈シタル為今日ノ安全ナル發展ヲ得タルモノ
ニシテ而シテ其協約モ結局何等為ス所ナキニ至レリ這回
ノ路權問題ハ當ニ東北ノ生死問題ニシテ又支那國ノ存亡
問題ナリ然ルニ吾人ハ地理上東北ハ特殊地位ニ在ルヲ知
ルヘシ況ソヤ當局ノ愛國ハ決シテ人民ニ劣ラス若シ民衆
ニシテ一時ニ意氣ヲ揚ケ軌外行動ヲ演成セムカ外交ヲ難
渋ニセシムルノミナラス後患更ニ想像ニ堪エサルモノア
ルヘシ

一、東三省民報
十一月十二日

張學良ハ吉林、長春、哈爾賓各學生運動カ常軌ヲ越セル
旨ノ報告ニ接シタルヲ以テ奉天省ノ學生カ真相不明ノ為
付和処動スルヲ恐レ十日校長ノ資格ヲ以テ東北大學ニ至
リ各職員列席ノ上大要左ノ通演説セリ

第七〇三号

往電第六八八号ニ閲シ

其ノ後鉄道問題交渉ハ支那側ノ態度煮切ラサル為依然拂々
シカラス唯是迄滿鉄ヨリノ度重ナル督促ニ依リ学良、楊宇
霆、張作相其ノ他保安会ノ連中モ各自利害關係ノ相違ハ別
トシ何レモ日本側ニ対スル手前何トカ解決セサルヘカラス
ト迄漸ク真面目ニ考ヘ来レルハ窺ヒ得ルモ自ラ進テ實行ノ
全責任ヲ負ハムトスルモノナキ為民意ノ反対其ノ他ヲ慮リ
尚躊躇シ居ルト云フカ如キ実状ニテ最近ノ狀況トシテハ去
ル十六日保安会ニテ本件ヲ省議會連合会ニ付議スヘキヤ否
ヤニ付討議セラレタル結果可成事後承諾ノ形式ヲ以テ同会
ニ通告スル方針ヲ取ルコトニ一応話合ヒタル趣ナルカ斯テ
ハ本件実現愈困難ナルコト明カナルニ依リ是非共保安会限
リニ止ムル様仕向ケツツアルモ連合会側今後ノ態度ヲ慮リ
学良、楊宇霆等モ何等カノ形ニテ一度同連合会側ニ付議ス
ルノ必要アリト主張シ居ルモノノ如ク旁本件今後ノ形勢ハ
樂觀シ得サルモノアル次第ナルカ一面連合会カ去ル十九日

奉天
本省
11月23日後着
發

頃南京政府市党部等各方面へ路權保持通電ヲ発セルヲ總司
令部ニテ差押ヘ居ル事實及其ノ他ノ情勢ニ鑑ミ未タ一概ニ
絶望ト云フヲ得サルモノアルヲ以テ今暫ク推移ヲ見極ムル
要アリト存セラル御参考迄

北京、吉林ヘ転電セリ

38
昭和3年
(編注)

東三省開放および土地所有權問題に関する有

* 田亞細亜局長南京出發に際しての打合せ事項
亞細亜局長南京出發ニ際シ協議打合セ事項

一、東三省開放及土地所有權問題ハ同地方ニ於ケル治外法
權問題ト共ニ成ルヘク速ニ特別ノ條約ヲ以テ規定スルコ
ト

二、支那側ニ於テ希望シ其ノ希望ヲ容ルルノ必要有ルニ於
テハ通商條約改訂ノ際該條約並ニ又ハ付屬議定書中ニ之
ヲ締結シ（又ハ通商條約改正ノ際）前記ノ事項ヲ正式ニ
決定スルコトヲ約セシメ置クコト交換公文ハ大体別紙第

余（学良）ハ吉林、長春、哈爾賓各地ノ報告ニ依リ学生
カ外交問題ノ為示威游行ヲ為シ哈爾賓ニ於テハ誤解ニ依
リ不幸事件ヲ發生シタルハ遺憾ナリ学生ノ外交問題ノ為
抗争スルハ元ヨリ愛國熱誠ヨリ出ツルハ勿論ナルモ意見
ノ陳述ニハ一定ノ順序アルニ付軌外ノ行動ニ出ツヘカラ
ス政府當局ハ外交問題ニ對シ處理非常ニ困難ナルニ付國
家主權ノ保持及桑梓ノ發展ヲ期スル為正ニ苦心計画シ居
ルヲ以テ此難關ヲ諒解セラレ度余ハ決シテ賣国人ニアラ
ス東省ノ權利及國家主權ヲ損スルコトアレハ余ハ決シテ
讓歩セス諸君ハ宜シク学生ヲ戒メ安心勉学セシメ意外ノ
拳動ニ出テ當局ヲ苦ムルヘカラス若シ今日ノ青年カ環境
ニ支配サルレハ國家ノ前途ニ望ナシ諸君ハ余ノ真意ヲ因
リ学生ヲ勤勉ナラシムヘシ云々

一号ノ如キ体裁トスルコト

四、東三省開放及土地所有権獲得ニ至ル迄ノ弁法トシテハ

南滿州（出来得レハ東三省）ノ開放及土地賃借権ノ許与

ヲ為サシメ日本側ニ於テハ同地方ニ於ケル支那側ノ警察

課税ヲ承認スルコト

五、右ノ方法トシテハ日支条約ヲ認メシメ若ハ之ヲ云々ス

ルカ如キ形式ヲ避ケ同條約第二条乃至第五条ニ規定セル事項ト實際上同一内容ヲ有スル條約ヲ締結スルコトヲ公文交換ニ依リ約束セシメ置クコト交換公文案案ハ別紙第二号ノ如キ体裁トナスコト

六、前記二項暫行弁法ハ支那側ヲシテ應諾セシムルコト困難ト認メタルトキハ臨機之レヲ撤回シテ差支ナキコト

七、前記根本解決案ヲ支那側ヲシテ承諾セシムルニ必要ナル場合ハ此際国民政府ヲ正式ニ承認スルノ措置ヲ執リ差支ナキコト

八、支那側ニ於テ前記根本解決案ヲ承諾スル場合ニハ南北妥協ハ阻止セサルコト

九、交換公文ハ日本側トシテハ発表ヲ希望スルモ支那側ニ於テ強イテ希望スルニ於テハ例ヘハ條約締結迄之レヲ發

表セサルコト

第一号

(甲)王正廷宛書翰案

以書翰致啓上候陳者本官ハ茲ニ外務大臣田中男爵ノ命ニ依リ左ノ通り閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

日本國政府ハ日支ノ特殊緊密ナル關係ニ顧ミ大正十五年北京ニ於ケル法權會議勸告ノ三ノ趣旨ヲ採用シ支那全土ニ亘ル治外法權ノ撤廃ニ先チ別ニ協定スル準備期間ノ経過ト共ニ東三省（南滿州鐵道付屬地ヲ除ク）ニ於テ領事裁判權ヲ撤廃シ該地域ニ於ケル日本國臣民ニ對スル支那國ノ法權ヲ回復スルノ用意有ルコトヲ声明シ且此目的ノ為ニ速カニ上記ノ基礎ノ上ニ日支間ニ新條約ヲ締結セムコトヲ提議ス

右照會得貴意候 敬具

(乙)王正廷発回答案

以書翰致啓上候陳者本日付貴翰ヲ以テ貴国外務大臣田中男爵閣下ノ命ニ依リ本部長宛左ノ通御照会ノ趣致領承候

日本國政府ハ……………セムコトヲ提議ス

右照會得貴意候 敬具

国民政府ハ前記貴翰ニ依ル日本政府ノ提議ヲ欣然受諾シ速カニ貴翰所載ノ基礎ノ上ニ新條約ヲ締結スルノ用意有ルコトヲ声明スルト同時ニ右新條約ニ依リ東三省ニ於テ領事裁判權カ撤廃セラルルニ至ル時ハ国民政府ハ右領事裁判權ノ撤廃セラレタル地域ニ於テ日本人口自由ニ居住往来シ各種ノ企業其ノ他ノ業務ニ從事シ且動産不動産ノ取得占有、処分ヲ為スノ權利ヲ認ムルノ用意有ルコトヲ確言致候

右貴国外務大臣田中男爵閣下ニ御伝達相成度此段照復得貴意候 敬具

第二号
王正廷発書翰案

以書翰致啓上候陳者国民政府ハ滿蒙殊ニ東三省ニ於テ門戶開放機會均等ノ主義ニ遵ヒ内外人ノ經濟活動ヲ促進スルハ同地方ノ平和的發展及慶福ヲ増進スル所以ナルコトヲ認識

スルニ依リ本日付ヲ以テ別ニ貴官トノ間ニ交換セル公文ニ

記載セル東三省ノ開放乃至土地所有権ノ問題ノ確定実施セ

参考
一、準備期間ハ仮リニ五年位

二、付属地ヲ治外法權撤去区域ヨリ除外スルコトニ支那側

絶対ニ反対スルトキハ問題カ此点ノミナレハ請訓スルコト

編注 有田（八郎）亜細亜局長は一月五日帰国した。